

令和6年度版

網走市人口ビジョン



令和7年2月

目 次

I. 網走市人口ビジョンの位置付け	1
II. 網走市人口ビジョンの対象期間	1
III. 網走市の人口の現状分析	1
1. 長期人口推移	
2. 年齢別の人口構成	
3. 人口動態の推移（社会動態、自然動態、年齢別人口動態）	
IV. 網走市の人口減少の影響	10
1. 人口の将来推計	
2. 人口減少の影響（産業構造、就業者数などへの影響）	
3. 小学校区ごとの将来人口推計	
V. 人口の将来展望	29
1. 人口分析のまとめ	
2. 人口の将来の見通し	

I 網走市人口ビジョンの位置付け

人口減少問題への対応には、長期的な人口の見通しを図り、それに基づいた各種施策を計画、実施する必要があります。

本市では平成27年に「網走市人口ビジョン」および「網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、更に令和2年には「第2期網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

令和2年の国勢調査の人口と、平成27年に策定した人口ビジョンの推計人口とは、乖離が生じていることから、今後の人口の見通しの指標となる「網走市人口ビジョン」を見直すこととしました。

II 網走市人口ビジョンの対象期間

網走市人口ビジョンは、国の研究機関である、国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）の人口推計を基礎数値として用いることとし、2050年を対象期間とします。

III 網走市の人口の現状分析

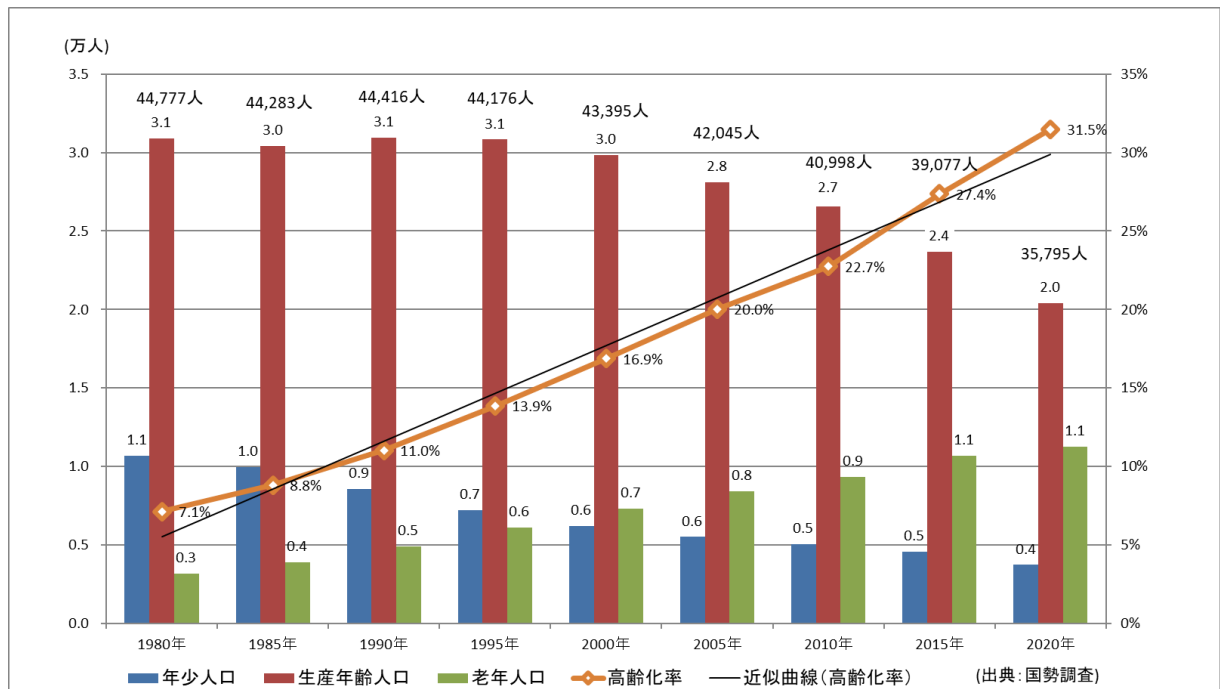
	分析
人口の現状	●1980～90年代の市内人口は4.4万人で推移したものの、2000年代に入り減少が続き、2020年は3.6万人となりました。 ●社会減少が長期にわたり継続。自然増減も2005年以降は減少に転じ本格的な人口減少が続いています。 ●東京農業大学があることから15歳～20歳代の構成比が高くなっています。
人口減少の影響	○2050年には2.1万人まで減少し、高齢化率は42.8%となる見込みです。ただし、老年人口は2020年をピークに減少に転じる見込みです。 ○就業者数が減少し、地域経済社会の縮小が予想されます。 ○少子化が続くことで社会保障制度の持続可能性が危ぶまれることが予想されます。

1. 長期人口推移（総人口、年齢区分別人口）

（1）総人口の推移

・総人口は、1980～1990年代は4.4万人台で推移してきましたが、2000年代には減少局面に入っており、2015（H27）年には3.9万人に減少しました。

・減少が著しいのは生産年齢人口であり、1990（H2）年の3.1万人をピークに2015年は2.4万人に減少しました。一方、老年人口は増加が継続しています。



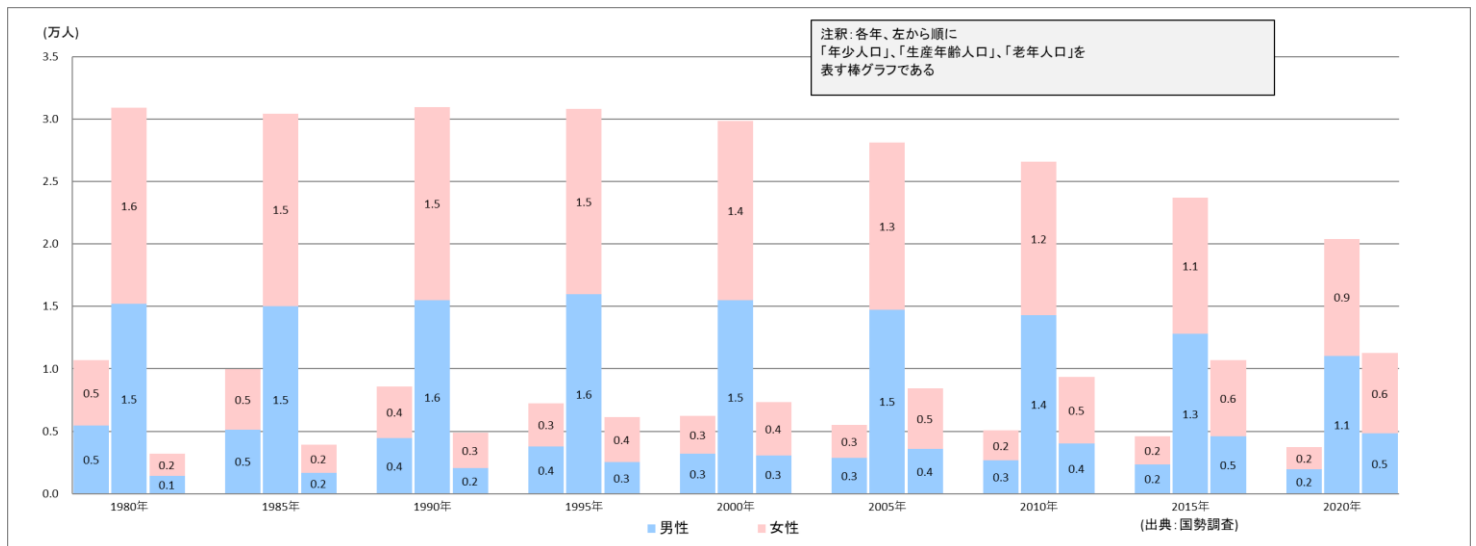
(2) 総人口の男女別推移

- ・1990年までは女性人口が男性人口を上回っていましたが、1995(H7)年以降は男性人口が女性人口を上回っています。
- ・2000年代以降は、男性・女性人口ともに減少しています。



(3) 年齢区分別人口の男女別推移

- ・男性は、2005 (H17) 年以降は年少人口と老年人口が逆転しています。
- ・女性は、男性より早く1995年以降は年少人口と老年人口が逆転し、高齢化は男性よりも高い水準で推移しています。



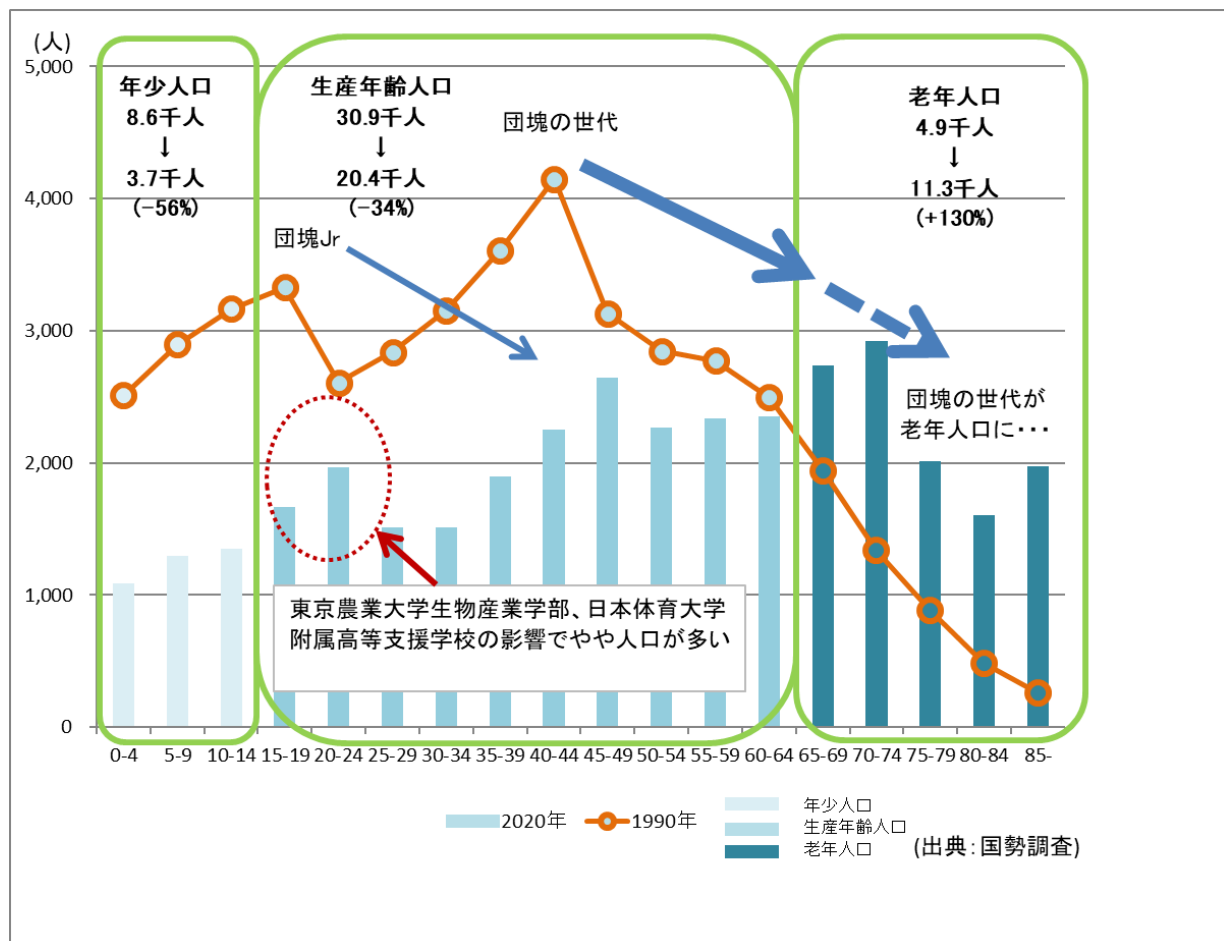
【参考】年齢区分について

年少人口 : 0~14 歳
 生産年齢人口 : 15~64 歳
 老年人口 : 65 歳以上

2. 年齢別の人口構成

・本市では1990年(H2)に、いわゆる「団塊の世代」が働き盛りを迎え、さらに、その子ども世代（団塊ジュニア）が生産年齢人口に入ってきたため、生産年齢人口がピークを迎えました。

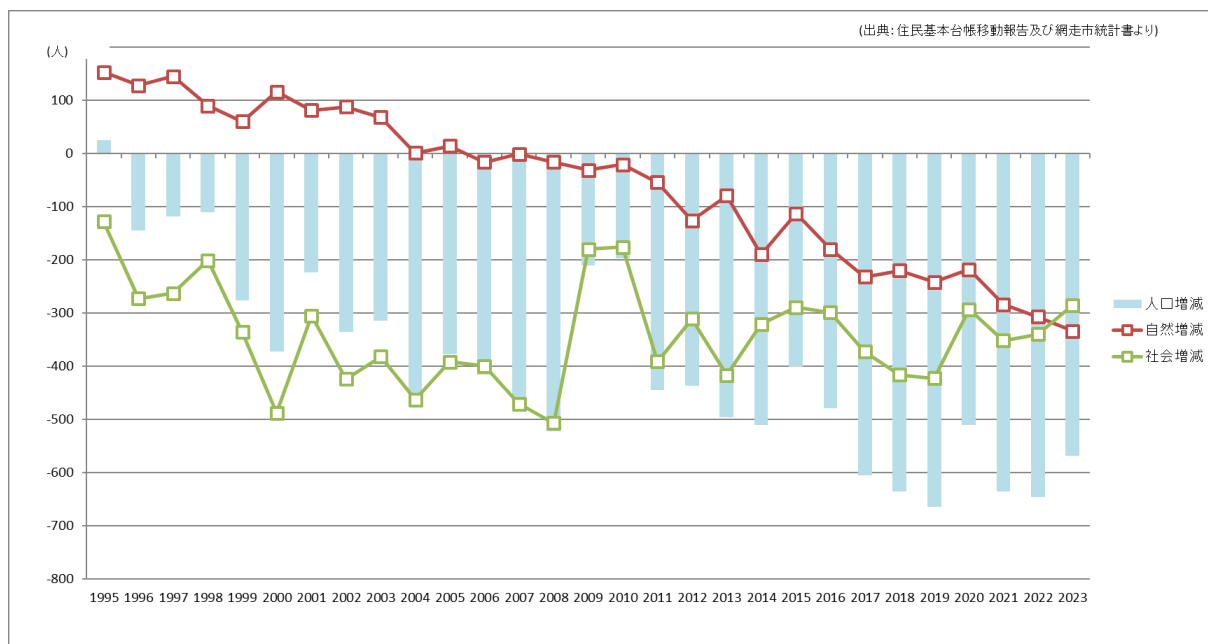
・女性は、男性より早く1995(H7)年以降に少子化・社会減少（転出超過）の影響で、年少人口と生産年齢人口が減少しています。一方で、老年人口は20年間で倍増しています。その中で、1989(H元)年に開学した東京農業大学生物産業学部の影響により20歳代前半の人口が比較的多い状況です。



3. 人口動態の推移（社会動態、自然動態、年齢別人口動態）

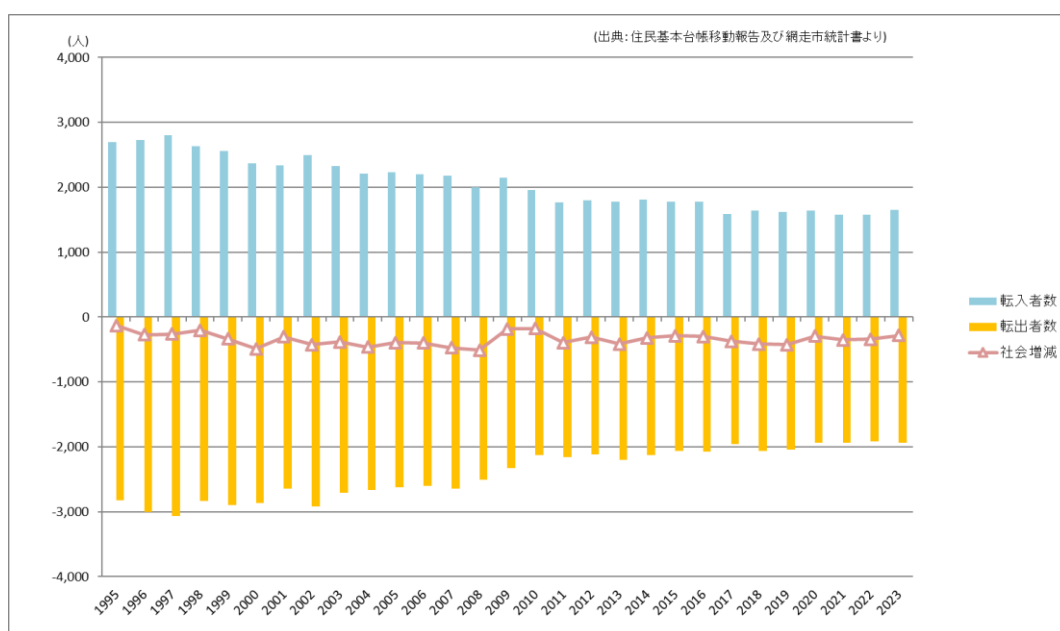
（1）人口動態の推移

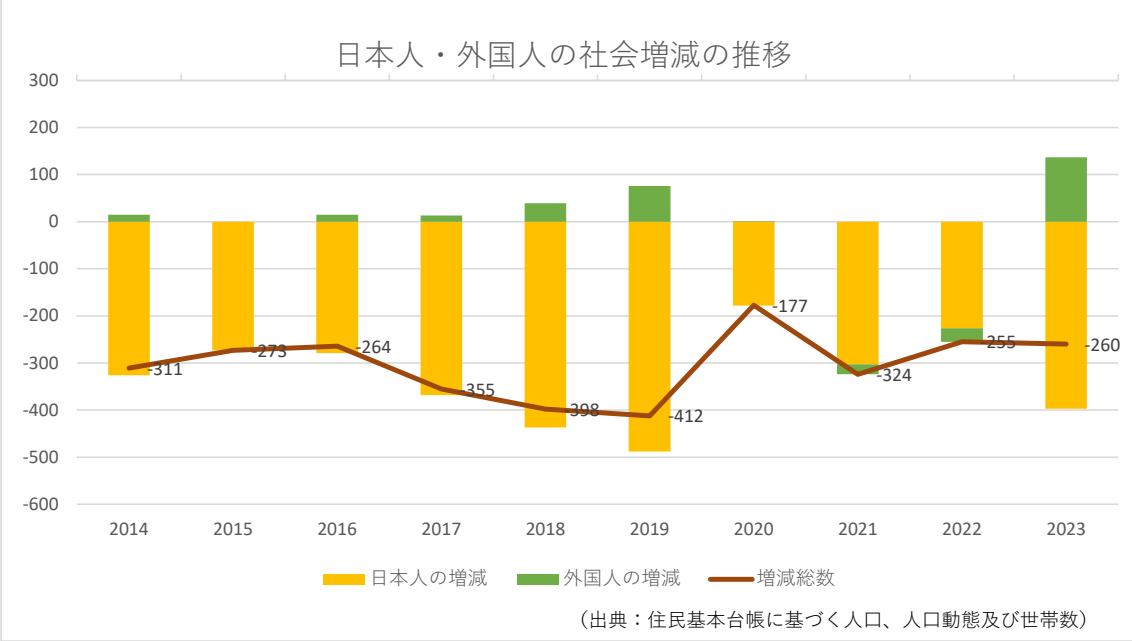
- ・人口は1990年代に減少に転じましたが、その主因は1995(H7)年から2000年代中盤までは、主に社会減少（転出＞転入）でした。
- ・しかし、2000年代中盤から高齢化・少子化が進む人口構造の帰結として、自然動態が減少（死亡＞出産）に転じ、網走市は本格的な人口減少局面に入ることとなりました。



（2）社会動態の推移

- ・長期にわたり転出超過が続き、社会減少が継続していますが、近年、外国人の転入超過数が増加傾向にあります。



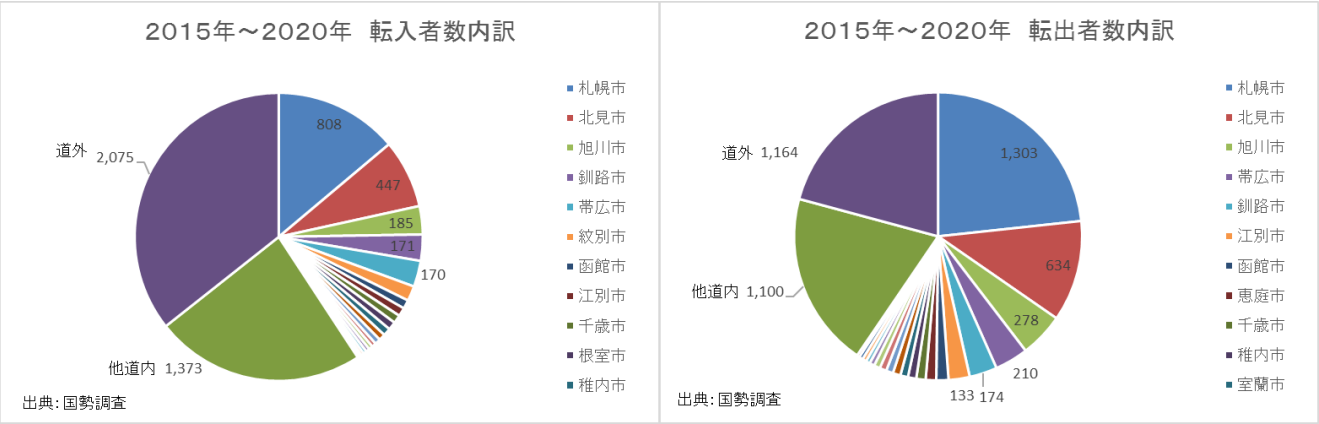


外国人の社会増減

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
転入	83	66	66	74	117	149	86	75	103	295
転出	57	62	45	45	74	69	82	82	130	150
社会増減	26	4	21	29	43	80	4	-7	-27	145

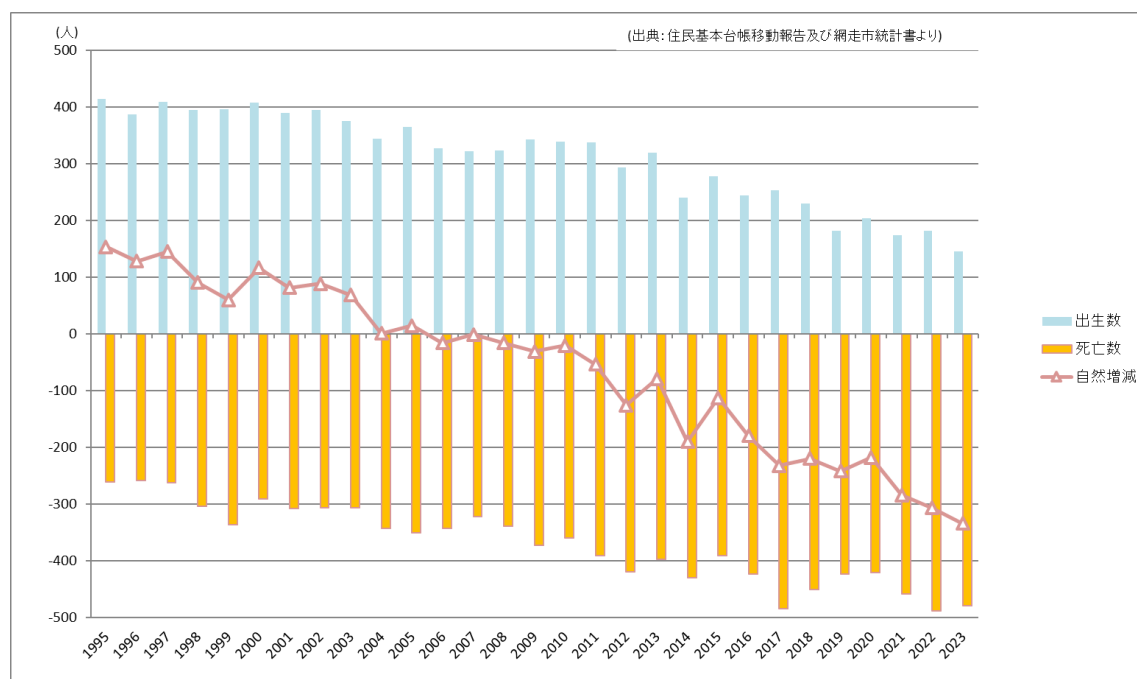
(3) 社会動態：転入・転出先

- ・転入は、札幌市からの流入が多くなっています。次いで、北見市、旭川市、釧路市、帯広市と道内の主要都市が続いています。
- ・転出は、転入と同じく札幌市への流出が多くなっています。次いで、近隣の北見市、旭川市、帯広市、釧路市と転入先とほぼ同じ地域が続いています。



(4) 自然動態

- ・本市の自然動態は、2000 年代中盤から出生数を死亡者数が上回る状態が見られるようになりました。
- ・出生者数は、1990 年代から 2000 年代初めは年間 400 人程度でしたが、近年は 200 人以下に減少しています。



【参考】合計特殊出生率について（実績値）

本市の合計特殊出生率は北海道全体と比較すると高いものの、全国と比較すると低い水準にあります。出生数の減と同期して、合計特殊出生率も年々減少しています。

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
全国	1.42	1.36	1.34	1.30	1.26	1.20
北海道	1.27	1.24	1.21	1.20	1.12	1.06
網走市	1.51	1.38	1.26	1.28	1.30	1.14

(出典) 全国および北海道：厚生労働省人口動態統計月報年計

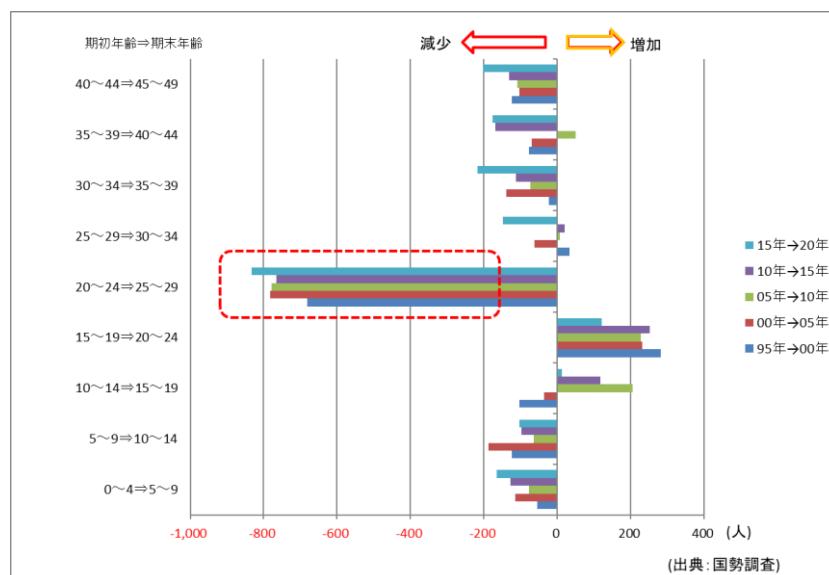
網走市：網走市健康推進課

合計特殊出生率：その年次の15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性がその年齢別出生率で一生の間に出産するとされる子どもの人数に相当

(5) 年齢別の人口動態：5歳階級ごとの人口増減

・本市では、東京農業大学生物産業学部の影響もあり、10歳代後半から20歳代前半にかけて人口の流入が見られます。

・しかし、20歳前半から後半にかけて大幅に人口が流出してしまい、その後、U・Iターンのような流入がほとんど見られない状況にあります。



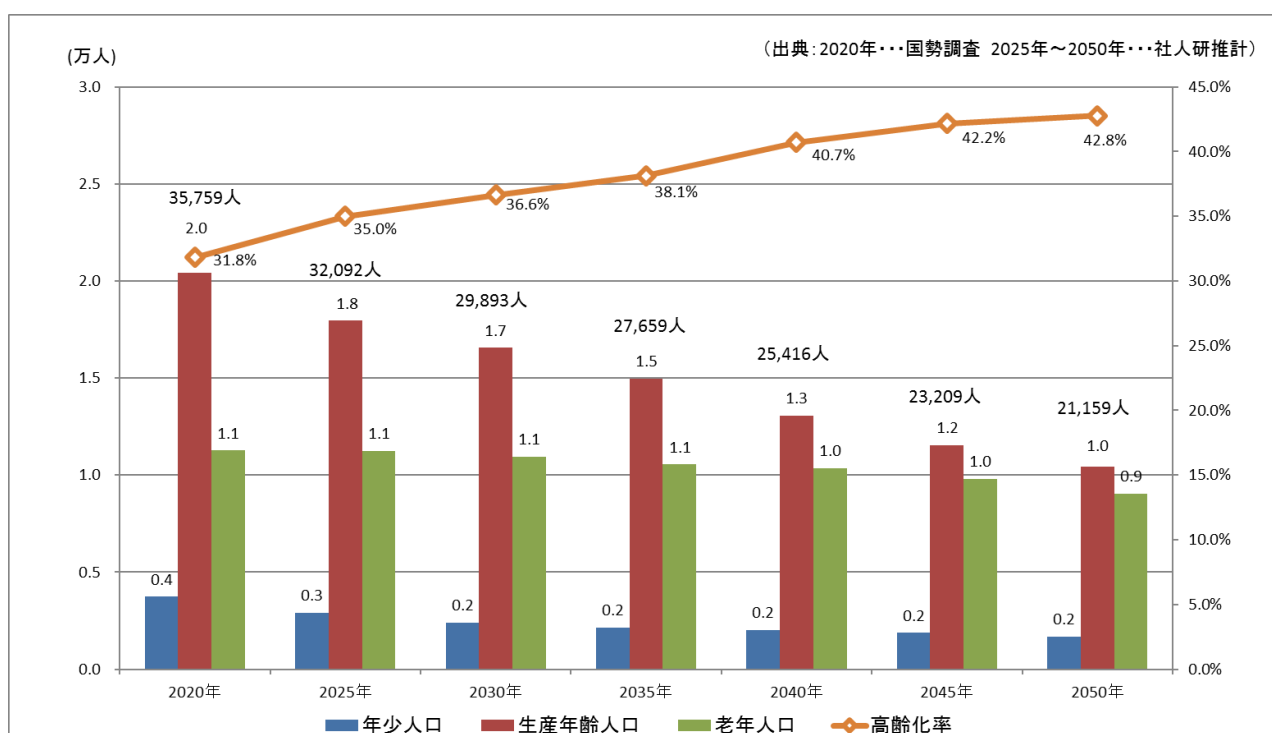
IV. 網走市の人口減少の影響

1. 人口の将来推計

(1) 年齢別人口の将来推計

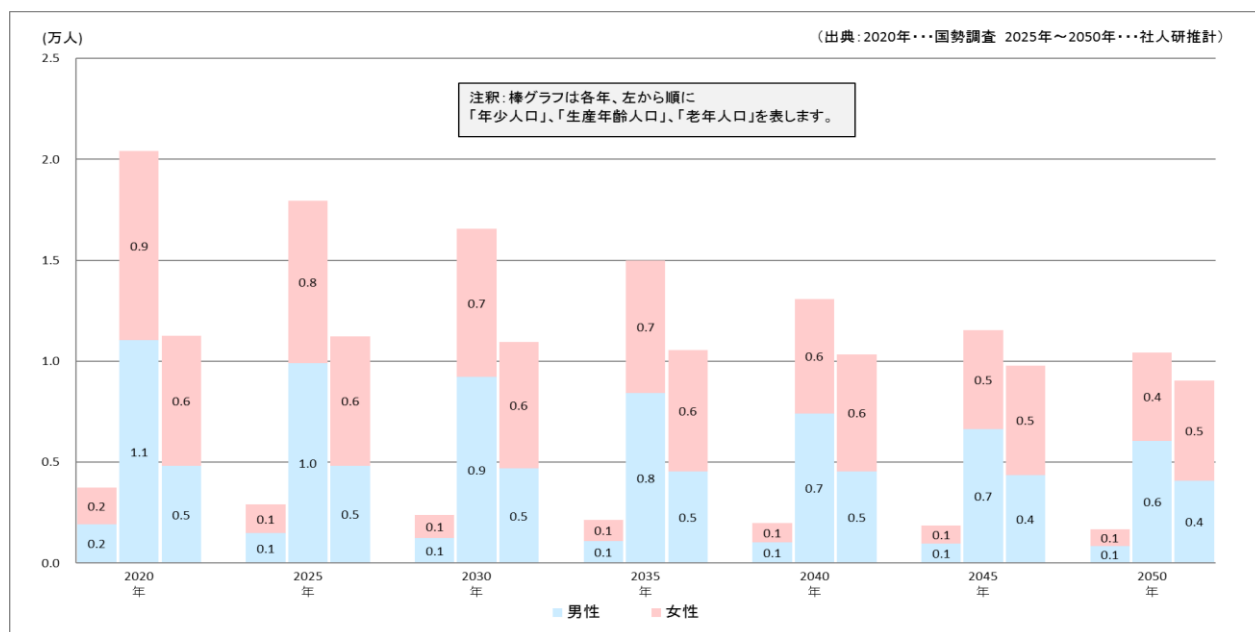
・これまでの人口動態が継続した場合、網走市の人口は、2020(R2)年の3.6万人から2050(R32)年には2.1万人にまで減少することが予想されます。特に、生産年齢人口の減少が顕著であり、2020年から2050年では2.0万人から1.0万人にまで減少する見込みです。

・一方、老年人口は2020(R2)年までは増加傾向でしたが、その後は徐々に減少に転じることが予想されます。ただし、年少人口・生産年齢人口は減少するため、高齢化率は増加を続け、2050年(R32)には42.8%に達する見込みです。



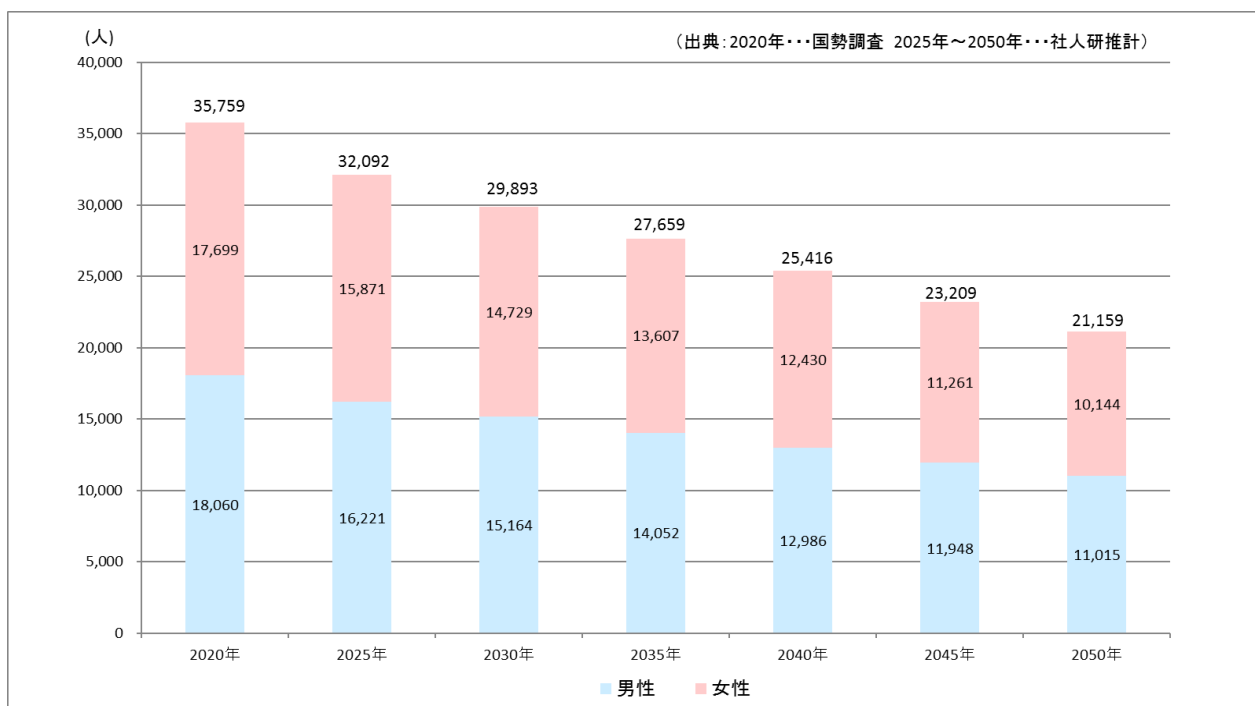
(2) 年齢別人口の男女別将来推計

- ・男女ともに年少人口、生産年齢人口は減少を続けますが、老年人口は2025(R7)年まで増加傾向となり、その後徐々に減少に転じることが予想されます。
- ・老年人口は女性の方が多く推移し、高齢化率も男性より高くなる見込みです。



(3) 男女別将来推計

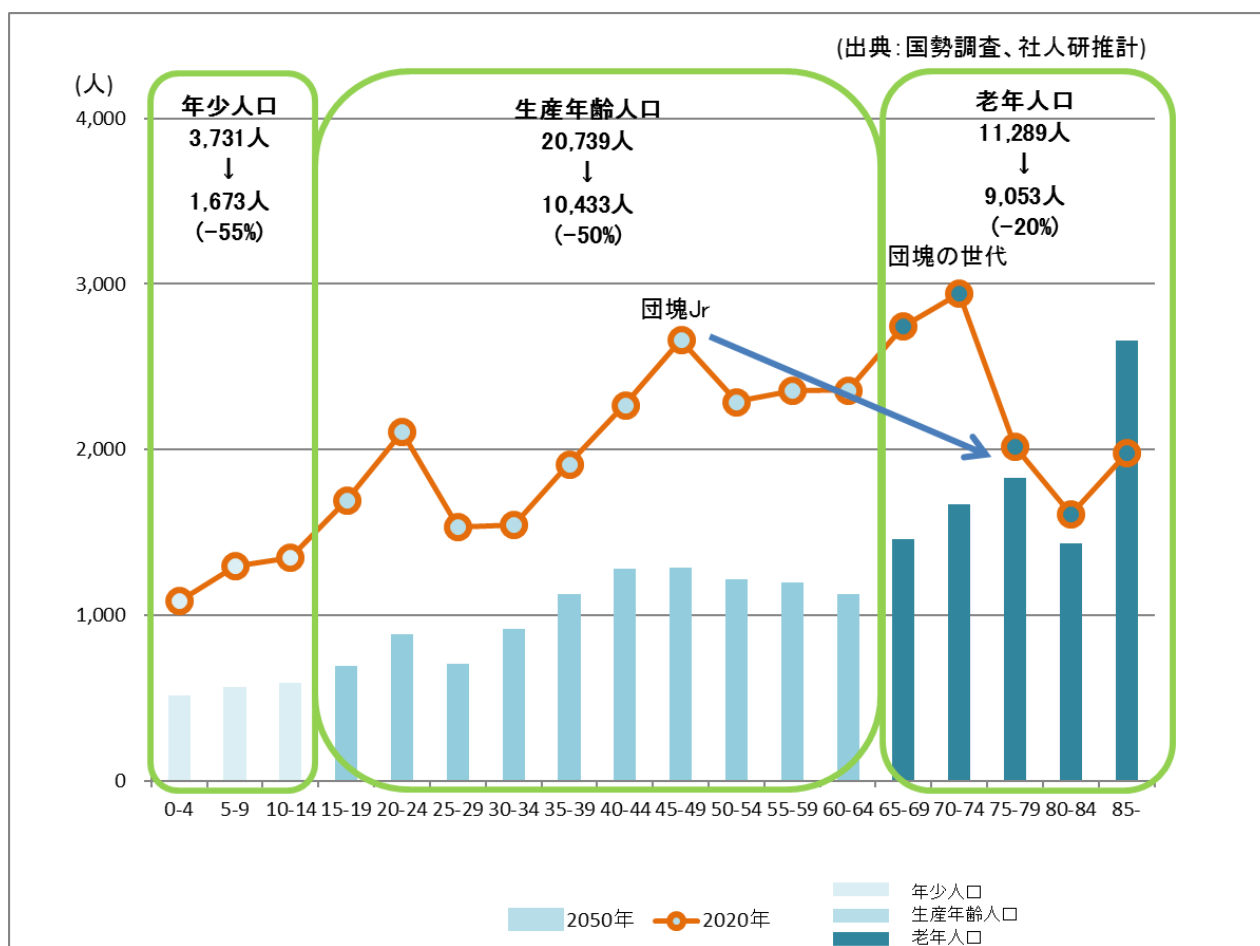
- ・2020(R2)年から2050(R32)年にかけて、男性、女性ともに減少が続く見込みです。
- ・男性の減少率は39.0% (18,060人→11,015人)、女性の減少率は42.7% (17,699人→10,144人)であり、女性の減少スピードが男性よりもやや速くなっています。



(4) 5歳階級ごとの人口の将来推計

・2050(R32)年には団塊の世代は85歳以上、団塊ジュニア世代は75歳以上になり、生産年齢人口の減少と高齢化が影響し、老年人口は約20%減少することが予想されます。

・生産年齢人口は2020年から約50%、年少人口は約55%減少することが予想されます。



【参考】推計方法について

● 5 歳以上年令階級の推計方法

ある年の男女・年齢別人口を基準（基準人口）とし、市区町村ごとの「生残率」と「純移動率」の仮定値を当てはめて将来人口を推計します。

例

- | | | | |
|---|------------------------------------|---|-------------|
| A | 2020 年（男 0～4 歳）基準人口 | = | 566 人（A） |
| B | 2020→2025 年（男 0～4 歳→5～9 歳）生残率の仮定値 | = | 0.99948（B） |
| C | 2020→2025 年（男 0～4 歳→5～9 歳）純移動率の仮定値 | = | -0.09383（C） |



2025 年（男 5～9 歳）の推計人口

$$A \times (B + C) = 566 \times (0.99948 - 0.09383) = 512.5979 \div 513 \text{ 人}$$

※2030 年（男 10～14 歳）の推計人口は、上記で算出した 513 人が基準人口となる。

● 「0～4 歳人口」の推計方法

20 歳から 44 歳の女性の人口に「子ども女性比」と「0～4 歳性比」を当てはめて将来人口を推計します。

例

- | | | | |
|---|---------------------|---|------------|
| A | 2025 年（女 20～44 歳）人口 | = | 3,288 人（A） |
| B | 2025 年 子ども女性比 | = | 0.24301（B） |
| C | 2025 年 0～4 歳性比 | = | 105.11（C） |



2025 年（男 0～4 歳）の推計人口

$$A \times B \times C \div (C + 100)$$

$$= 3,288 \times 0.24301 \times 105.11 \div (105.11 + 100) = 409.4615 \div 409 \text{ 人}$$

※女性の場合は $A \times B \times 100 \div (C + 100)$ で算出

【用語解説】

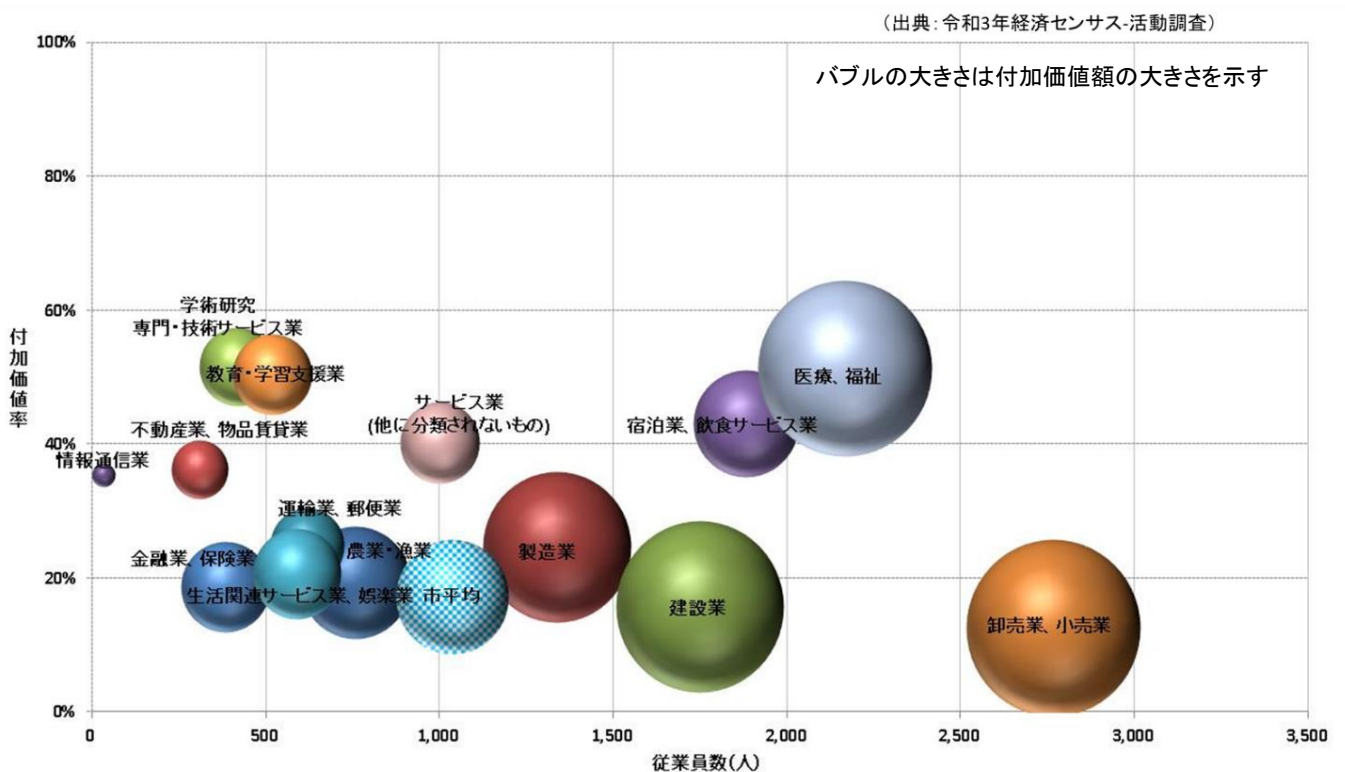
- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・生残率～ある年の男女、年齢 X～X+4 歳の人口が 5 年後に生き残っている率・順移動率～ある年の男女、年齢 X～X+4 歳の人口に関する順移動数（転入－転出）を、ある年の人口で割った値・子ども女性比～ある年の 0～4 歳の人口（男女計）を、その年の 20～44 歳の女性人口で割った値・0～4 歳性比～ある年の 0～4 歳女性人口 100 人当たりの 0～4 歳男性人口 |
|--|

2. 人口減少の影響（産業構造、就業者数などへの影響）

（1）産業構造への影響

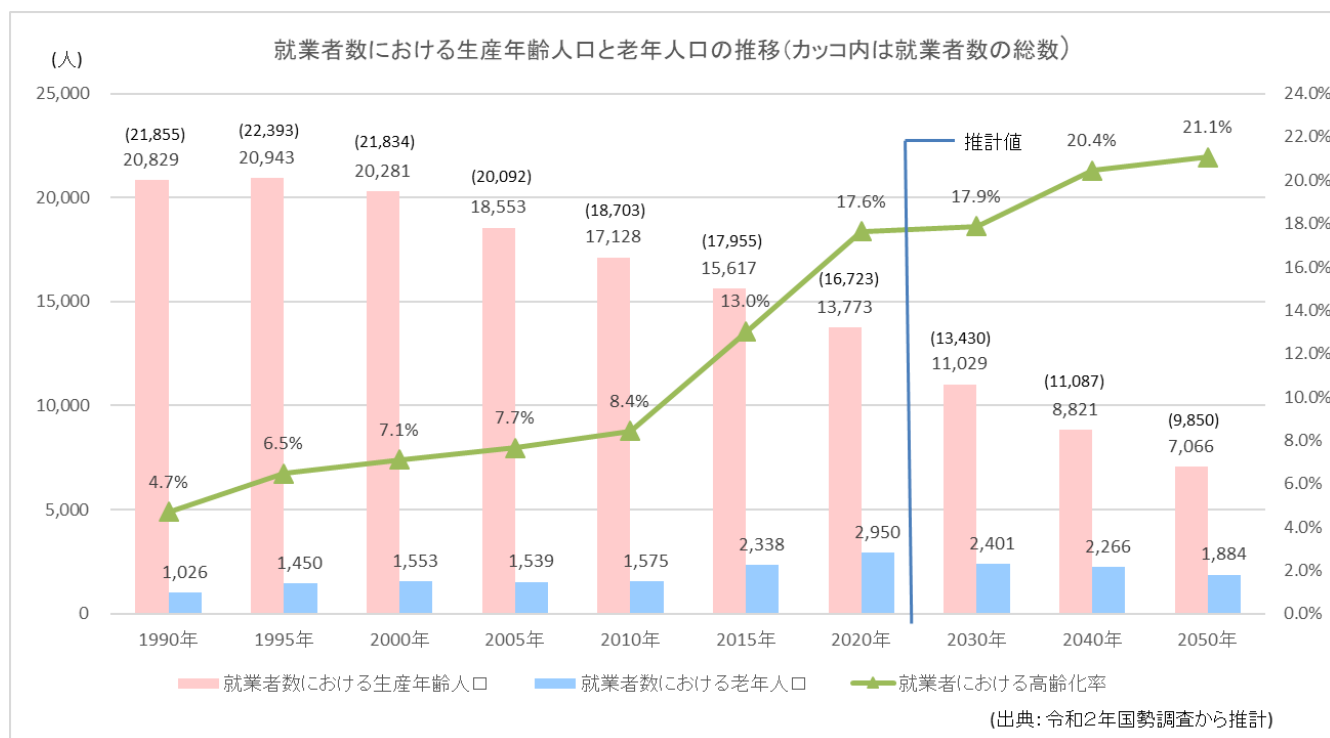
・本市の産業構造は、「卸売業・小売業」「医療・福祉業」の2つが付加価値額・従事者数の面で高い数値となっています。ただし、これらは典型的な域内市場産業（近隣地域の人々を顧客とする産業）であるため、域内の人口動向に左右されます。

・本市の基幹産業として挙げられる「農業・漁業」の付加価値率が低いため、生産性向上等による”稼ぐ力”の強化が可能と考えられます。一方「学術研究専門・技術サービス業」「教育・学習支援業」「宿泊業・飲食サービス業（観光業）」「医療・福祉」は付加価値率が高く、競争力のある産業と言えます。



(2) 就業者数への影響

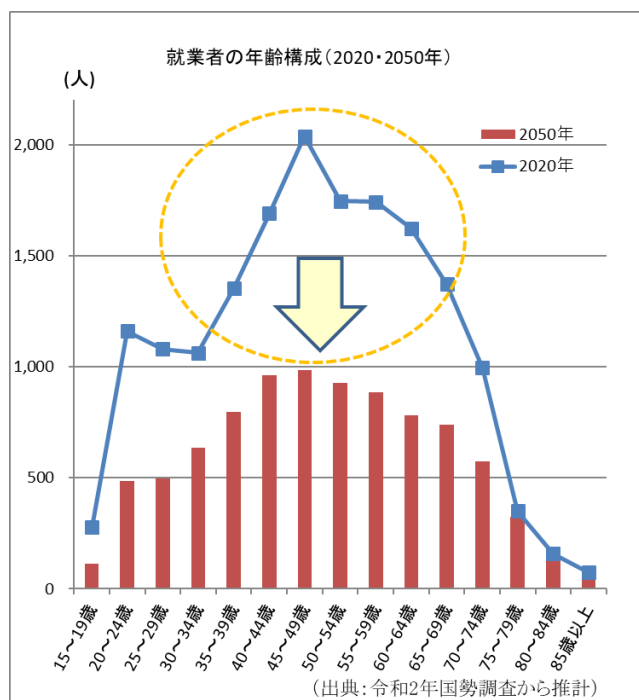
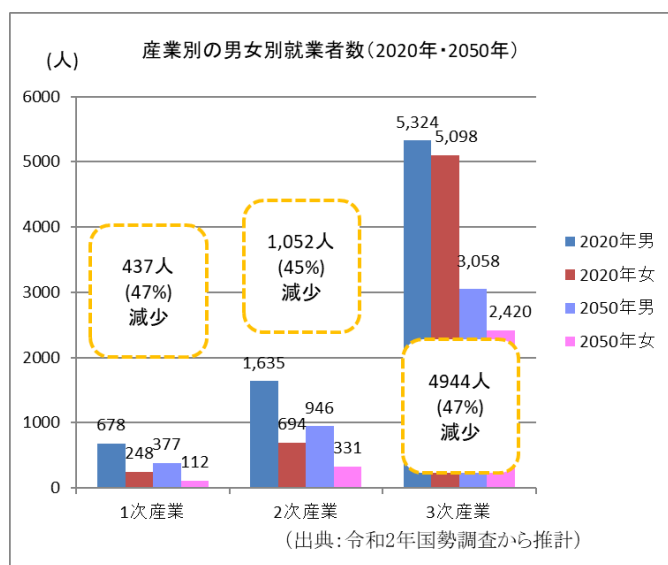
・2000年代に入り総人口が減少傾向となるに伴い、就業者数も1995(H07)年をピークに減少しています。今後、これまでのように人口減少が継続した場合は、2050(R32)年に就業者数が9,850人にまで減少していくと推計されています。しかしながら、就業者に占める老年人口の割合は今後も更に高まり、幅広い年齢層の人々が活躍できる職場環境の整備などが求められることが予想されます。



(3) 産業別・年齢別の就業者数への影響

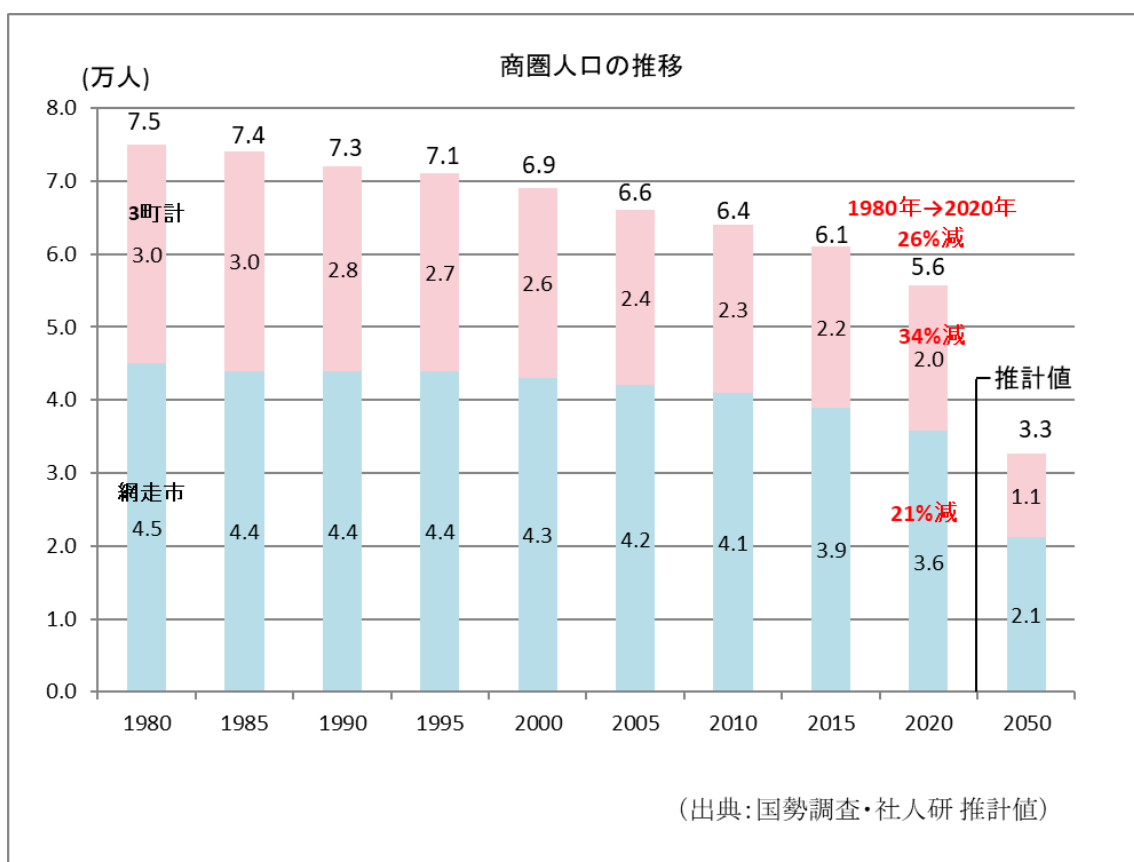
・産業別の就業者数では、1次・2次・3次産業すべての産業で4割以上減少する見込みとなっています。将来、1次産業で現在の産業規模が継続され続け、従事する人口が減少し人手が不足する懸念があります。

・年齢別には、20歳～50歳のいわゆる働き盛りと呼ばれる人々が大幅に減少します。このことにより、市内での生産・消費といった経済活動の停滞を招く恐れがあります。



(4) 域内産業への影響

- ・最も雇用を吸引し、付加価値を生んでいるのは「卸売・小売業」です。
- ・網走市は近接する小清水町・清里町・斜里町とともに網走商圈を形成し、商業面で地域の中核としての役割を果たしています。ただし、商圈の人口は1980(S55)年から2020(R2)年で26%減少しています。特に、網走市では21%の減少に留まるのに対し、商圈を形成する3町では合計で34%もの減少となっています。
- ・2050(R32)年には網走市と3町合計で約3.3万人まで減少し、1980(S55)年の半数以下になることから、商業・サービス業をはじめとする域内産業へのなんらかの影響が予想されます。



3. 小学校区ごとの将来人口推計

・小学校区別で人口分布を見た場合、現状人口、推計人口ともに潮見小学校区が最も人口が多くなっています。次いで、網走小学校区、南小学校区と続いています。

・2020年（R02）現状人口と2050年（R32）の推計人口を比較すると、東小学校区の総人口の減少率が34.4%と最も低く、西小学校区の総人口の減少率が50.3%と最も高くなっています。

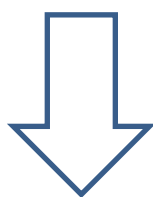
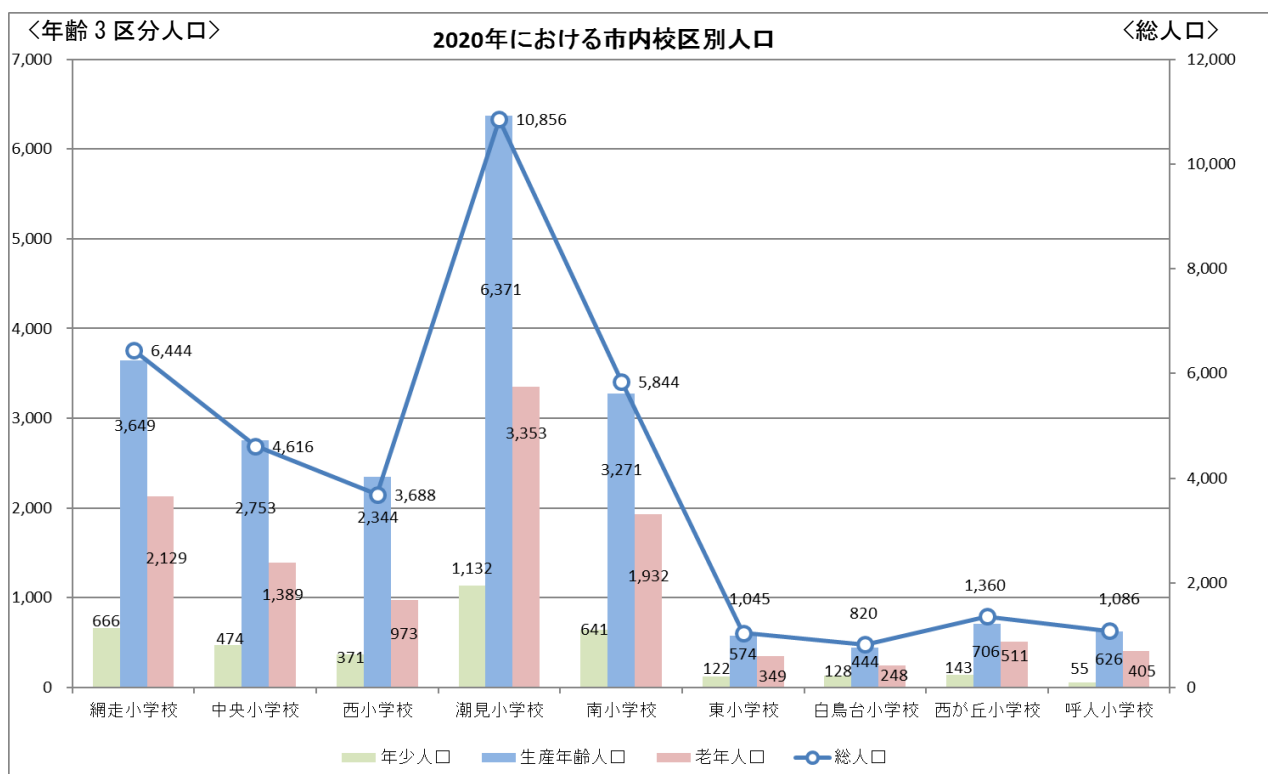
校 区	2020年 現状人口								2050年 推計人口								2020年から 2050年の増減			
	総人口	年少人口		生産年齢人口		老年人口		総人口	年少人口		生産年齢人口		老年人口		総人口 増減率	年少人口 増減率	生産年齢 人口 増減率	老年人口 増減率		
網走小学校	6,444	666	(10.3%)	3,649	(56.6%)	2,129	(33.0%)	3,719	301	(8.1%)	1,813	(48.7%)	1,605	(43.2%)	-42.3%	-54.8%	-50.3%	-24.6%		
中央小学校	4,616	474	(10.3%)	2,753	(59.6%)	1,389	(30.1%)	2,850	228	(8.0%)	1,520	(53.3%)	1,102	(38.7%)	-38.3%	-51.9%	-44.8%	-20.7%		
西小学校	3,688	371	(10.1%)	2,344	(63.6%)	973	(26.4%)	1,833	114	(6.2%)	942	(51.4%)	777	(42.4%)	-50.3%	-69.3%	-59.8%	-20.1%		
潮見小学校	10,856	1,132	(10.4%)	6,371	(58.7%)	3,353	(30.9%)	6,613	555	(8.4%)	3,307	(50.0%)	2,751	(41.6%)	-39.1%	-51.0%	-48.1%	-18.0%		
南小学校	5,844	641	(11.0%)	3,271	(56.0%)	1,932	(33.1%)	3,604	298	(8.3%)	1,622	(45.0%)	1,684	(46.7%)	-38.3%	-53.5%	-50.4%	-12.8%		
東小学校	1,045	122	(11.7%)	574	(54.9%)	349	(33.4%)	685	56	(8.2%)	359	(52.4%)	270	(39.4%)	-34.4%	-54.1%	-37.5%	-22.6%		
白鳥台小学校	820	128	(15.6%)	444	(54.1%)	248	(30.2%)	450	55	(12.2%)	208	(46.2%)	187	(41.6%)	-45.1%	-57.0%	-53.2%	-24.6%		
西が丘小学校	1,360	143	(10.5%)	706	(51.9%)	511	(37.6%)	812	64	(7.9%)	358	(44.1%)	390	(48.0%)	-40.3%	-55.2%	-49.3%	-23.7%		
呼人小学校	1,086	55	(5.1%)	626	(57.6%)	405	(37.3%)	593	2	(0.3%)	304	(51.3%)	287	(48.4%)	-45.4%	-96.4%	-51.4%	-29.1%		
市内全体	35,759	3,732	(10.4%)	20,738	(58.0%)	11,289	(31.6%)	21,159	1,673	(7.9%)	10,433	(49.3%)	9,053	(42.8%)	-40.8%	-55.2%	-49.7%	-19.8%		

【出典】

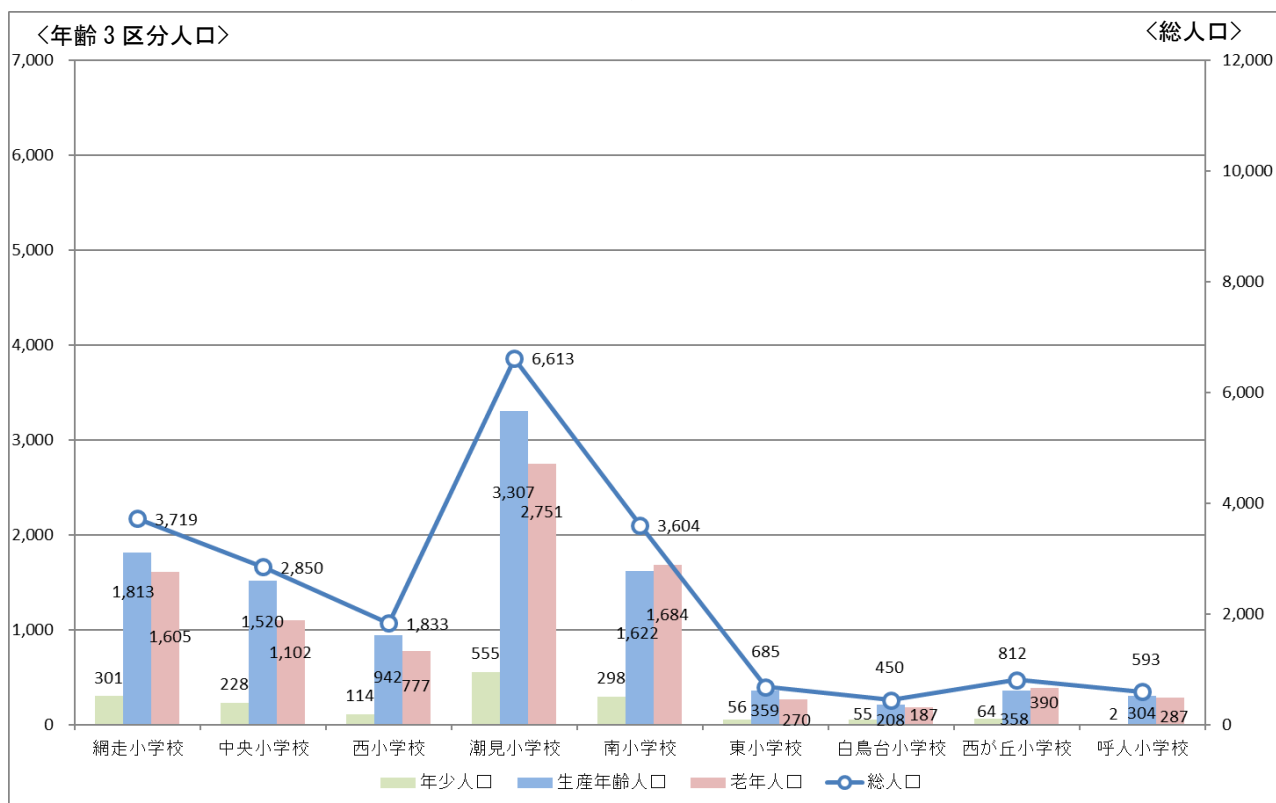
2020年現状人口：国勢調査

2050年推計人口（市内全体人口）：国立社会保障・人口問題研究所推計値

2050年推計人口（小学校区別人口）：網走市独自集計



30年後（推計値）



（１）網走小学校区の将来人口推計

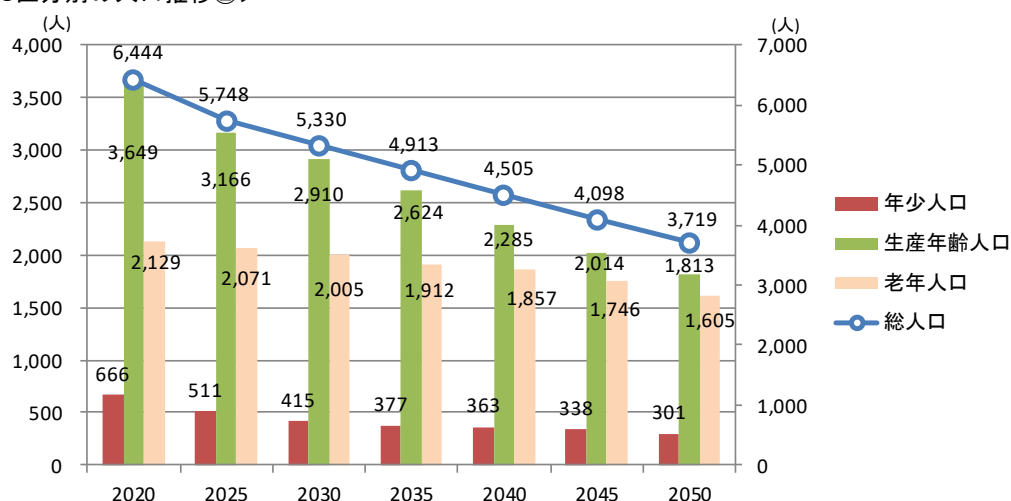
・2020年時点では総人口が6,444人ですが、2050年には3,719人に減少すると見込まれます。老年人口の割合が他の小学校区と比較して相対的に高いまま推移すると考えられます。

<年齢3区分別の人口推移①>

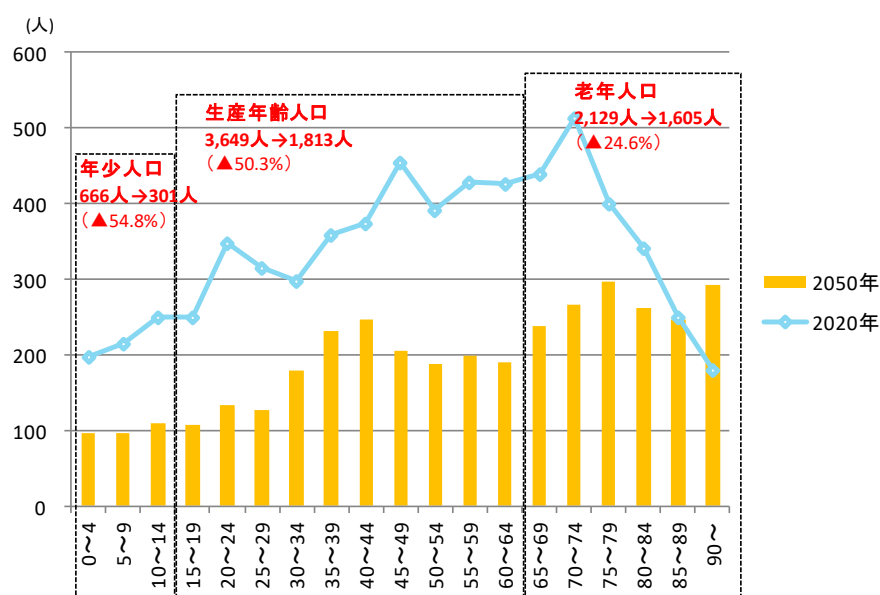
01 網走小学校	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
総人口	6,444	5,748	5,330	4,913	4,505	4,098	3,719
年少人口	666 (10.3%)	511 (8.9%)	415 (7.8%)	377 (7.7%)	363 (8.1%)	338 (8.2%)	301 (8.1%)
生産年齢人口	3,649 (56.6%)	3,166 (55.1%)	2,910 (54.6%)	2,624 (53.4%)	2,285 (50.7%)	2,014 (49.1%)	1,813 (48.7%)
老年人口	2,129 (33.0%)	2,071 (36.0%)	2,005 (37.6%)	1,912 (38.9%)	1,857 (41.2%)	1,746 (42.6%)	1,605 (43.2%)

単位：人 カッコ内は構成比

<年齢3区分別の人口推移②>



<2020年-2050年の年齢3区分人口推移>



（２）中央小学校区の将来人口推計

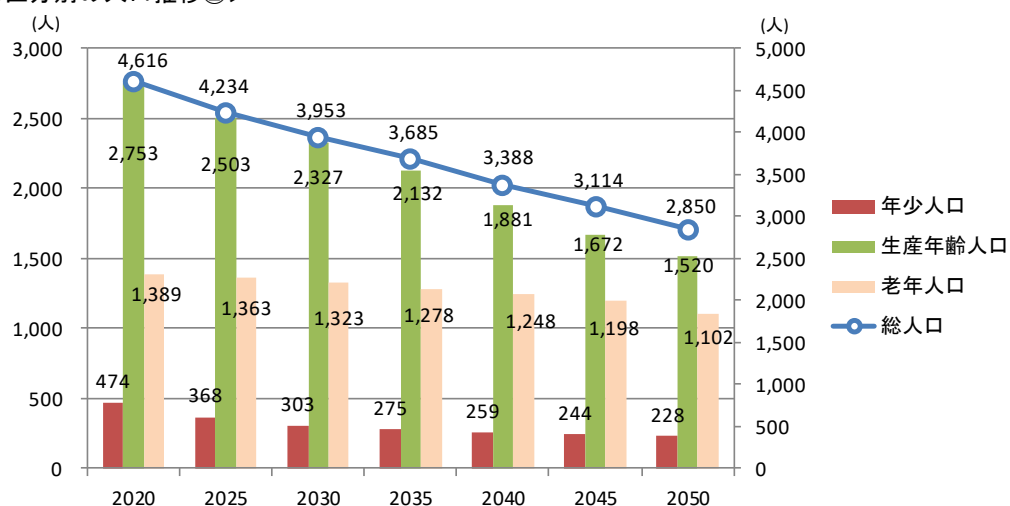
・2020年の総人口は4,616人、2050年には2,850人になると見込まれます。生産年齢人口の減少率が他の小学校区と比べて比較的低く、老年人口は比較的小ない状態を維持すると予測されます。全体的にバランスの取れた人口構成を維持すると考えられます。

<年齢3区分別の人口推移①>

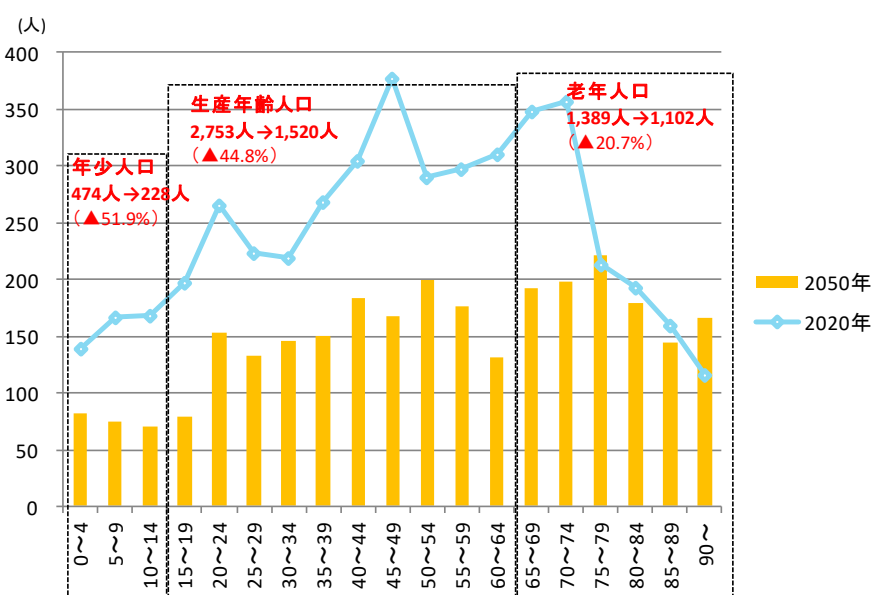
02 中央小学校	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
総人口	4,616	4,234	3,953	3,685	3,388	3,114	2,850
年少人口	474 (10.3%)	368 (8.7%)	303 (7.7%)	275 (7.5%)	259 (7.6%)	244 (7.8%)	228 (8.0%)
生産年齢人口	2,753 (59.6%)	2,503 (59.1%)	2,327 (58.9%)	2,132 (57.9%)	1,881 (55.5%)	1,672 (53.7%)	1,520 (53.3%)
老年人口	1,389 (30.1%)	1,363 (32.2%)	1,323 (33.5%)	1,278 (34.7%)	1,248 (36.8%)	1,198 (38.5%)	1,102 (38.7%)

単位：人 カッコ内は構成比

<年齢3区分別の人口推移②>



<2020年-2050年の年齢3区分人口推移>



（３）西小学校区の将来人口推計

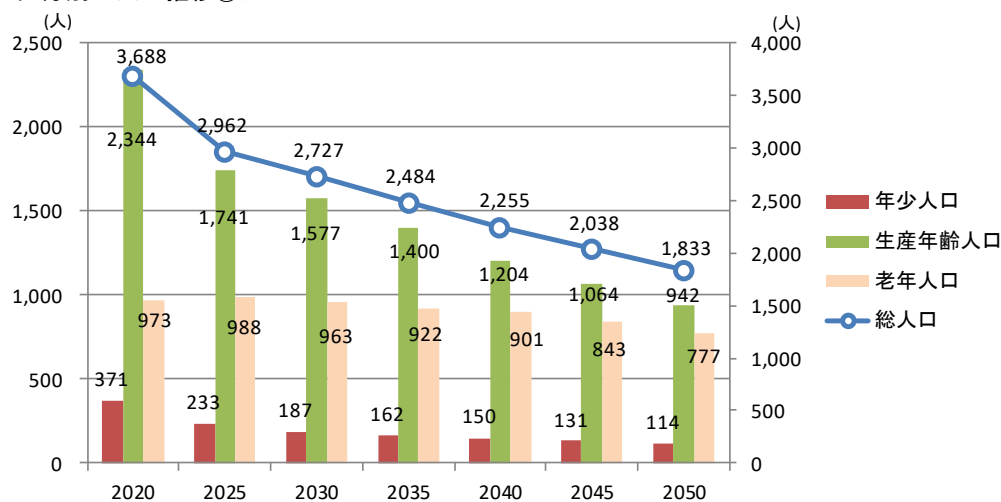
・2020年時点では生産年齢人口の割合が最も高いですが、2050年までの年少人口の減少率が非常に高いことが特徴です。2020年の総人口は3,688人、2050年には1,833人になると見込まれており、高齢化が急速に進むと予測されます。

<年齢3区分別の人口推移①>

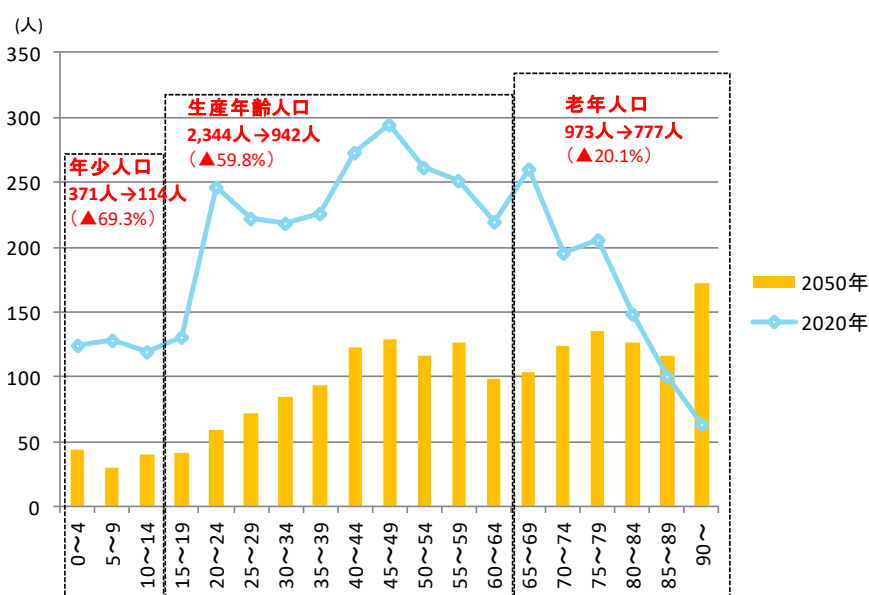
03 西小学校	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
総人口	3,688	2,962	2,727	2,484	2,255	2,038	1,833
年少人口	371 (10.1%)	233 (7.9%)	187 (6.9%)	162 (6.5%)	150 (6.7%)	131 (6.4%)	114 (6.2%)
生産年齢人口	2,344 (63.6%)	1,741 (58.8%)	1,577 (57.8%)	1,400 (56.4%)	1,204 (53.4%)	1,064 (52.2%)	942 (51.4%)
老年人口	973 (26.4%)	988 (33.4%)	963 (35.3%)	922 (37.1%)	901 (40.0%)	843 (41.4%)	777 (42.4%)

単位：人 カッコ内は構成比

<年齢3区分別の人口推移②>



<2020年-2050年の年齢3区分人口推移>



（４）潮見小学校区の将来人口推計

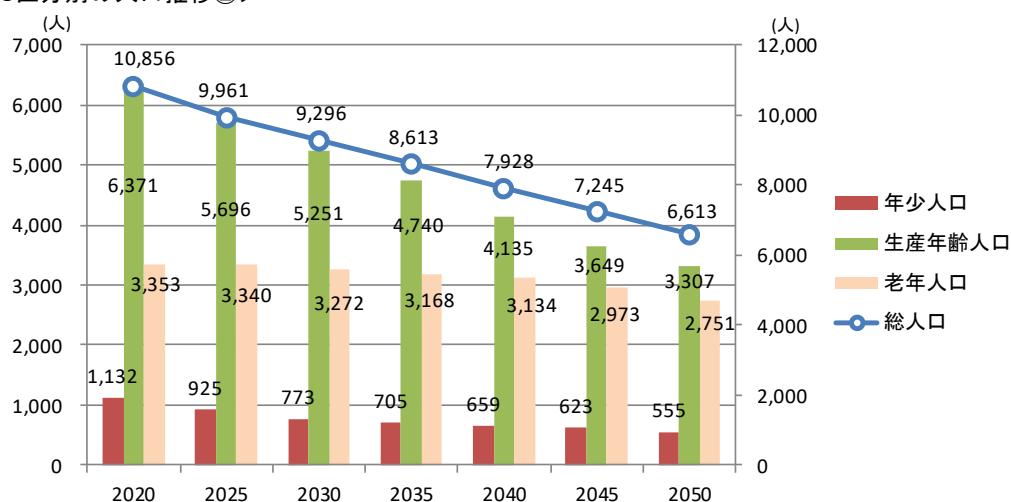
・2020年の総人口は10,856人と市内最多ですが、2050年には6,613人と人口減少の幅も大きいです。他の小学校区と比較して、各年齢層の人口規模が大きいたことが特徴ですが、2050年にかけてその規模が縮小すると予測されます。

<年齢3区分別の人口推移①>

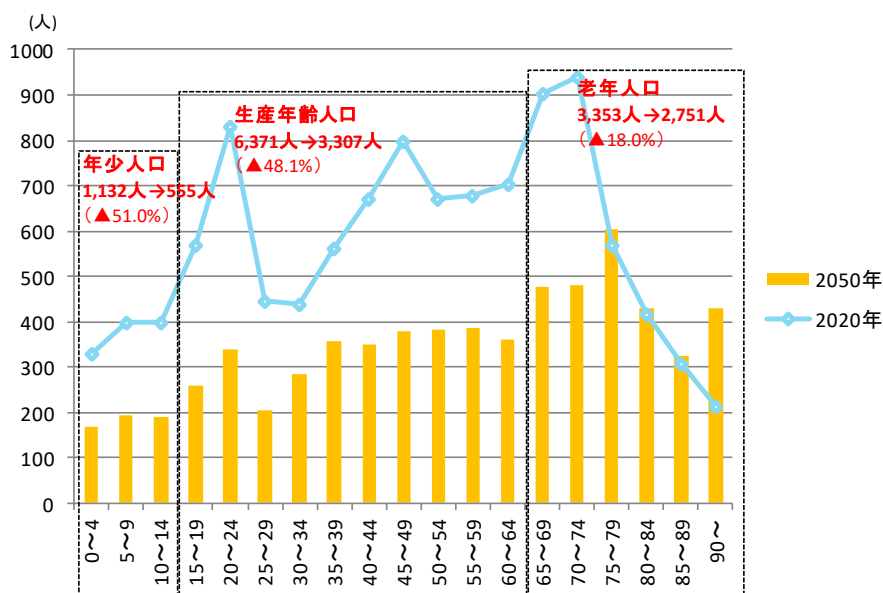
04 潮見小学校	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
総人口	10,856	9,961	9,296	8,613	7,928	7,245	6,613
年少人口	1,132 (10.4%)	925 (9.3%)	773 (8.3%)	705 (8.2%)	659 (8.3%)	623 (8.6%)	555 (8.4%)
生産年齢人口	6,371 (58.7%)	5,696 (57.2%)	5,251 (56.5%)	4,740 (55.0%)	4,135 (52.2%)	3,649 (50.4%)	3,307 (50.0%)
老年人口	3,353 (30.9%)	3,340 (33.5%)	3,272 (35.2%)	3,168 (36.8%)	3,134 (39.5%)	2,973 (41.0%)	2,751 (41.6%)

単位：人 カッコ内は構成比

<年齢3区分別の人口推移②>



<2020年-2050年の年齢3区分人口推移>



（５）南小学校区の将来人口推計

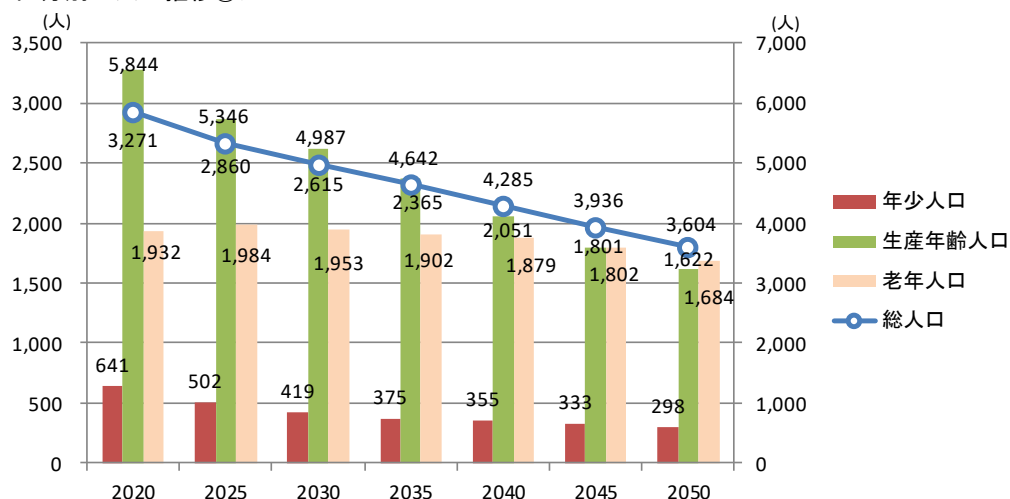
・年少人口、生産年齢人口、老年人口のバランスが比較的均等ですが、全体的な人口減少が予測されます。2020年の総人口は5,844人、2050年には3,604人になると見込まれており、他の小学校区と比較して、人口構成の変化が比較的緩やかであることが特徴です。

＜年齢3区分別の人口推移①＞

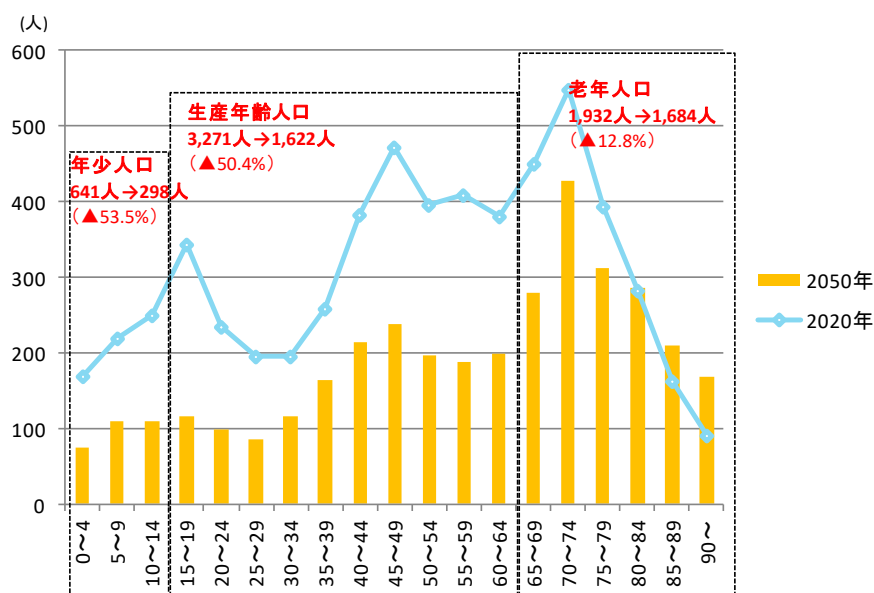
05 南小学校	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
総人口	5,844	5,346	4,987	4,642	4,285	3,936	3,604
年少人口	641 (11.0%)	502 (9.4%)	419 (8.4%)	375 (8.1%)	355 (8.3%)	333 (8.5%)	298 (8.3%)
生産年齢人口	3,271 (56.0%)	2,860 (53.5%)	2,615 (52.4%)	2,365 (50.9%)	2,051 (47.9%)	1,801 (45.8%)	1,622 (45.0%)
老年人口	1,932 (33.1%)	1,984 (37.1%)	1,953 (39.2%)	1,902 (41.0%)	1,879 (43.9%)	1,802 (45.8%)	1,684 (46.7%)

単位：人 カッコ内は構成比

＜年齢3区分別の人口推移②＞



＜2020年-2050年の年齢3区分人口推移＞



（６）東小学校区の将来人口推計

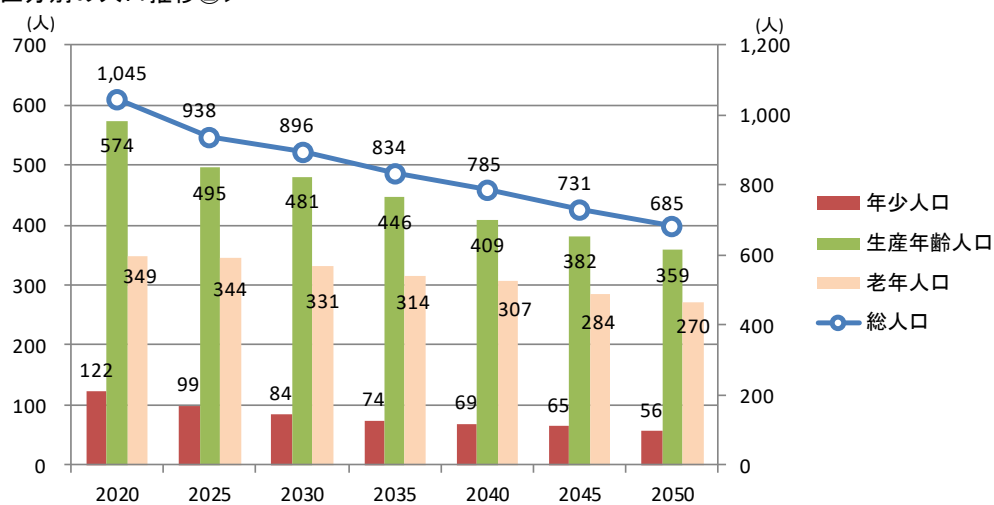
・2020年の総人口は1,045人と市内2番目に少ないですが、2050年には685人に減少すると見込まれています。年少人口の割合が比較的高いことが特徴です。

<年齢3区分別の人口推移①>

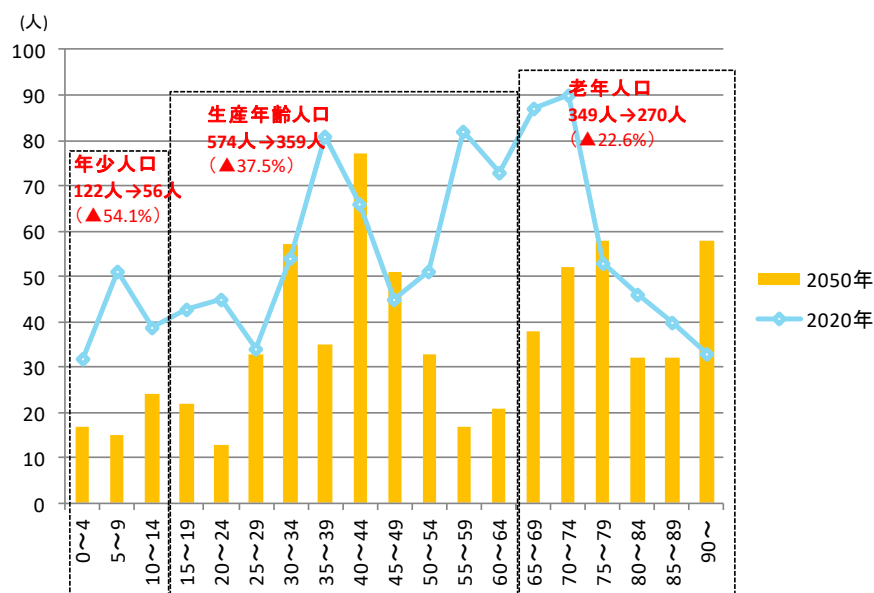
06 東小学校	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
総人口	1,045	938	896	834	785	731	685
年少人口	122 (11.7%)	99 (10.6%)	84 (9.4%)	74 (8.9%)	69 (8.8%)	65 (8.9%)	56 (8.2%)
生産年齢人口	574 (54.9%)	495 (52.8%)	481 (53.7%)	446 (53.5%)	409 (52.1%)	382 (52.3%)	359 (52.4%)
老年人口	349 (33.4%)	344 (36.7%)	331 (36.9%)	314 (37.6%)	307 (39.1%)	284 (38.9%)	270 (39.4%)

単位：人 カッコ内は構成比

<年齢3区分別の人口推移②>



<2020年-2050年の年齢3区分人口推移>



（７）白鳥台小学校区の将来人口推計

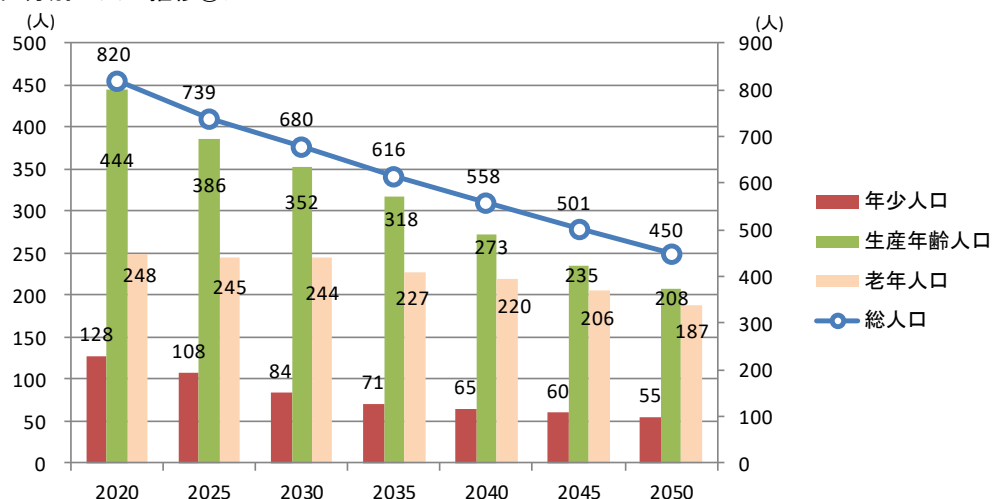
・年少人口の割合が最も高いですが、総人口が非常に少なく、人口減少率も高いです。2020年の総人口は820人、2050年には450人と見込まれており、人口規模が小さく、少子化の影響が大きいと予測されます。

<年齢3区分別の人口推移①>

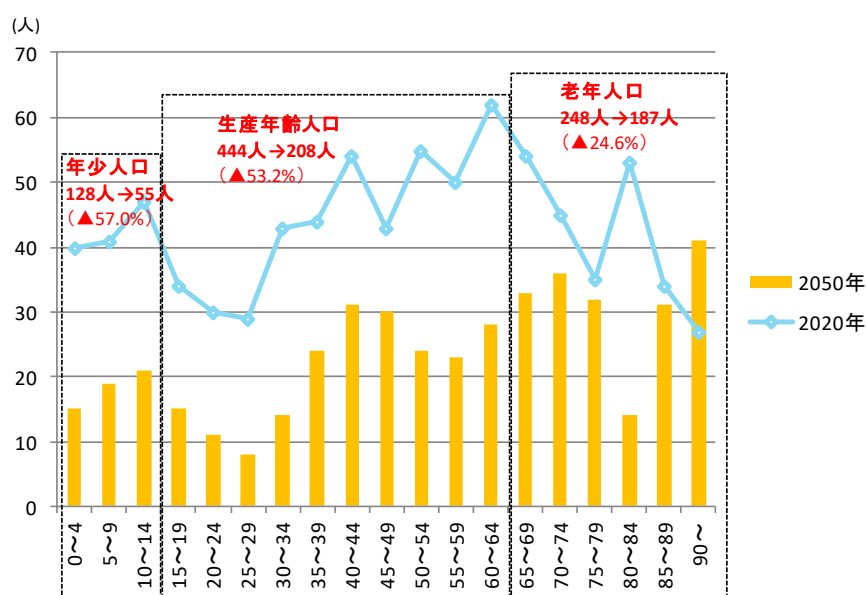
07 白鳥台小学校	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
総人口	820	739	680	616	558	501	450
年少人口	128 (15.6%)	108 (14.6%)	84 (12.4%)	71 (11.5%)	65 (11.6%)	60 (12.0%)	55 (12.2%)
生産年齢人口	444 (54.1%)	386 (52.2%)	352 (51.8%)	318 (51.6%)	273 (48.9%)	235 (46.9%)	208 (46.2%)
老年人口	248 (30.2%)	245 (33.2%)	244 (35.9%)	227 (36.9%)	220 (39.4%)	206 (41.1%)	187 (41.6%)

単位：人 カッコ内は構成比

<年齢3区分別の人口推移②>



<2020年-2050年の年齢3区分人口推移>



（８）西が丘小学校区の将来人口推計

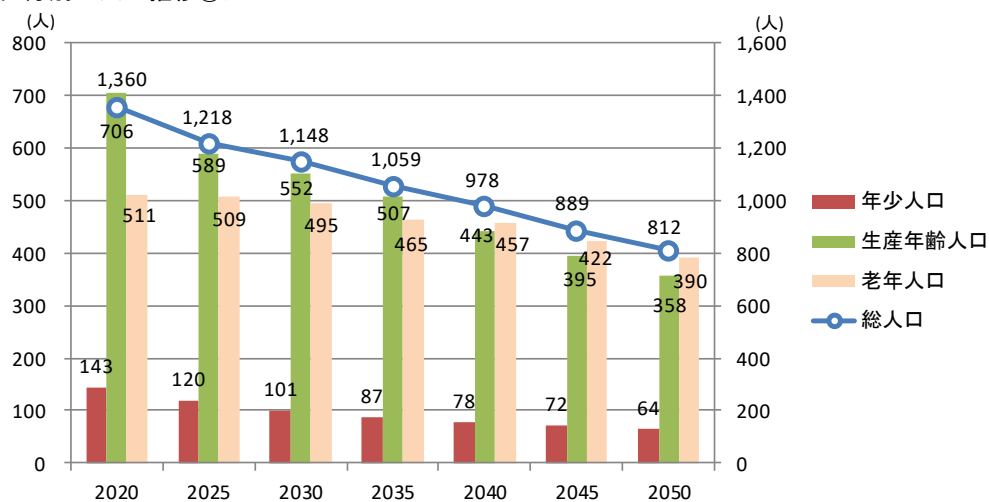
・老年人口の割合が最も高いですが、生産年齢人口の割合が低いことが特徴です。2020年の総人口は1,360人、2050年には812人になると見込まれており、高齢化が最も進んでおります。

<年齢3区分別の人口推移①>

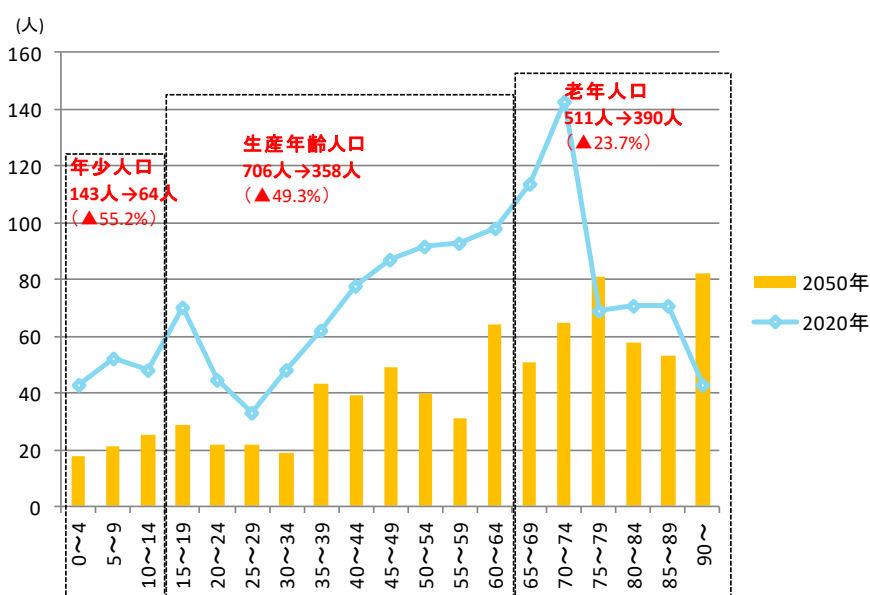
08 西が丘小学校	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
総人口	1,360	1,218	1,148	1,059	978	889	812
年少人口	143 (10.5%)	120 (9.9%)	101 (8.8%)	87 (8.2%)	78 (8.0%)	72 (8.1%)	64 (7.9%)
生産年齢人口	706 (51.9%)	589 (48.4%)	552 (48.1%)	507 (47.9%)	443 (45.3%)	395 (44.4%)	358 (44.1%)
老年人口	511 (37.6%)	509 (41.8%)	495 (43.1%)	465 (43.9%)	457 (46.7%)	422 (47.5%)	390 (48.0%)

単位：人 カッコ内は構成比

<年齢3区分別の人口推移②>



<2020年-2050年の年齢3区分人口推移>



（９）呼人小学校区の将来人口推計

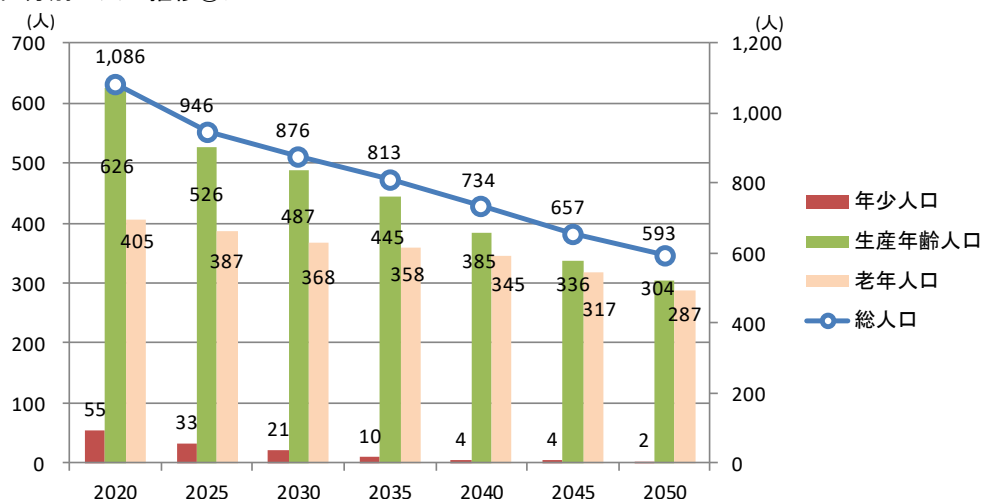
・年少人口の割合が極端に低いことが際立っています。2020年の総人口は1,086人、2050年には593人になると見込まれており、また、2050年には年少人口がわずか2人になると見込まれていることから、少子化が最も深刻な小学校区です。

<年齢3区分別の人口推移①>

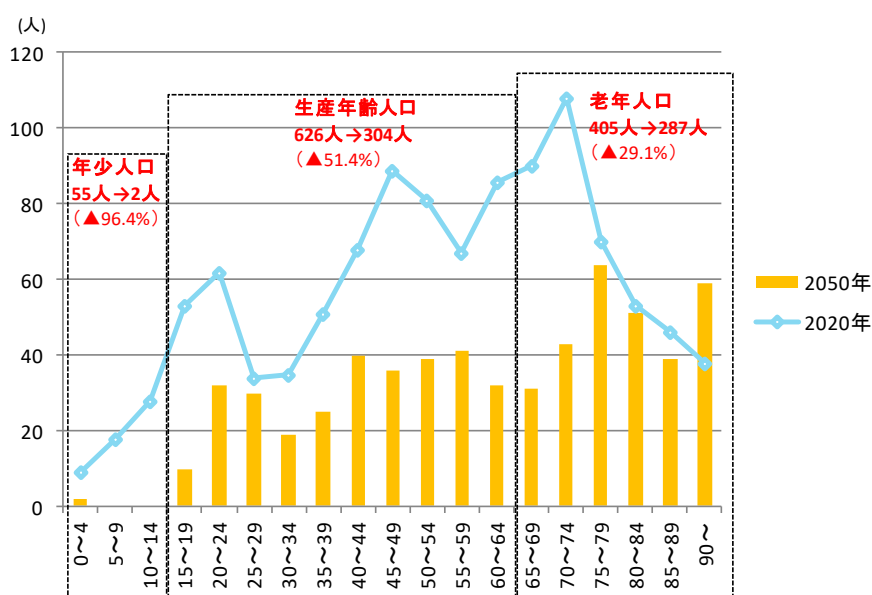
09 呼人小学校	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
総人口	1,086	946	876	813	734	657	593
年少人口	55 (5.1%)	33 (3.5%)	21 (2.4%)	10 (1.2%)	4 (0.5%)	4 (0.6%)	2 (0.3%)
生産年齢人口	626 (57.6%)	526 (55.6%)	487 (55.6%)	445 (54.7%)	385 (52.5%)	336 (51.1%)	304 (51.3%)
老年人口	405 (37.3%)	387 (40.9%)	368 (42.0%)	358 (44.0%)	345 (47.0%)	317 (48.2%)	287 (48.4%)

単位：人 カッコ内は構成比

<年齢3区分別の人口推移②>



<2020年-2050年の年齢3区分人口推移>



V. 人口の将来展望

1. 人口分析のまとめ

- ・国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の将来推計人口（令和5年推計）」結果によると、総人口は50年後に現7割に減少し、出生率は低下するものの、平均寿命が延伸し、外国人の入国超過により、人口減少の進行はわずかに緩和されるとあります。

- ・北海道内においても、未婚化や晩婚化の進行に加え、経済的な不安などにより、特に30歳代前半の出生率が低いほか、若年層を中心とした道外への転出超過などにより、人口減少の大きな流れを変えるには至っておりません。

- ・本市の人口減少は、年少人口と生産年齢人口の減少、老年人口の増加が主な要因です。特に生産年齢人口の減少が地域の労働力不足を引き起こしています。

- ・また、自然増減と社会増減の両方がマイナスであり、特に社会増減の影響が大きいことから、出生率の改善と転出超過の抑制が大きな課題です。

（1）社会増減

- ・本市では特に20～24歳の生産年齢人口の転出が顕著です。年少人口も一貫して減少しており、若年層の転出が続いています。転出先としては札幌市が最も多く、次いで北見市、旭川市、帯広市、釧路市と道内の主要都市が続いています。

- ・外国人の転入超過数は、近年は増加傾向にあり、社会減の抑制に寄与しています。

（2）自然増減

- ・本市の合計特殊出生率は、全道平均を上回るものの、人口置換水準の2.07には達しておらず、長期的な人口維持が困難となっています。

【参考】人口置換水準について

人口が増加も減少もしない均衡した状態となる合計特殊出生率の水準のこと。

2. 人口の将来の見通し

●2050年の人口を21,159人確保することを目指します。

・本市が平成27年度に策定した網走市人口ビジョン（以下、「旧ビジョン」）においては、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」における合計特殊出生率の目標水準に準拠し、2030年には1.93、2040年には人口置換水準を上回る、2.20まで回復すると仮定し、2040年の人口は32,817人となる推計を行いました。

・しかしながら、近年の出生数の減少や、若年層を中心とした市外への転出超過など様々な背景と要因により、旧人口ビジョン策定当時の2015年の人口39,077人に比べ、2020年の人口は約3,300人少ない35,759人（いずれも国勢調査結果による）となるなど、人口減少の大きな流れを変えるには至っていない状況です。

・このことから、今回改定する人口ビジョンにおいては、こうした現状を分析し、対策を進めていく必要があることから、これまでの人口動態等を基に推計した社人研の「地域別将来推計」の算出方法に準拠し、現状のまま推移とした場合の当市における人口の推計値21,159人を確保することを目指します。

・2050年において、年令3区分別の人口の内訳は、2020年と比較すると老年人口で約20%、生産年齢人口では約49%、年少人口では約55%減少することが予想されています。

・こうした推計結果を踏まえ、今後も出生率の向上や若年層の定住促進、転出超過の抑制・外国人の受入れなどにより、自然減及び社会減の両面から人口減少の進行を緩和する取組を粘り強く推進し、目標人口の確保を目指します。

【参考】合計特殊出生率の算出方法について

社人研推計（令和５年）における当市の「子ども女性比」（出生中位）の仮定値をもとに、「合計特殊出生率」に換算した値

なお、換算率（子ども女性比／合計特殊出生率）は、社人研推計（令和５年）における全国の出生中位の各仮定値より算出

※「子ども女性比」：０～４歳人口の２０～４４歳女性人口に対する比。通常、子ども女性比は１５～４９歳女性人口に対する比とするのが一般的であるが、１５～１９歳と４５～４９歳の年齢別出生率は非常に低く、これらの年齢別人口が今後相対的に大きくなる市区町村において０～４歳人口が過大になる可能性があることから、今回の推計では２０～４４歳女性人口に対する比を用いている。

網走市の合計特殊出生率

＝網走市の子ども女性比 × 換算率（全国の子ども女性比／合計特殊出生率）



	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年	2045 年	2050 年
合計特殊出生率	1.26	1.29	1.32	1.33	1.33	1.34
換算率	5.17	5.18	5.20	5.24	5.22	5.32
子ども女性比	0.24	0.25	0.25	0.25	0.26	0.25

